

平成 2 9 年 度 実 践 報 告 集

時 計 台

全校研究テーマ

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～社会に開かれた教育課程をめざして～

平成 3 0 年 3 月

千葉県立富里特別支援学校

新たなチーム富里特別支援学校の出発として

校長 保科 靖宏

今年度4月から、本校は県立栄特別支援学校と分離し、児童生徒数170名規模でのスタートとなりました。まさに新たな富里特別支援学校の出発となりました。

研究については、本年度から新たな全校研究テーマとして「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～社会に開かれた教育課程をめざして～」を掲げることとなり、学校全体で、また小学部、中学部、高等部、AC学級(重複学級)としても研究を進めてきました。

平成30年度から、新学習指導要領が小学部から段階的に実施となっていきます。本校では、これを絶好のチャンスとして、全校あげて、現在、本校に在籍している児童生徒のための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組むこととしました。その先には、この地域とつながる社会に開かれた教育課程の編成へ発展していきます。千葉県立特別支援学校の新たな取組として、子どもたちの能力を最大限に伸ばすことのできる知的障害教育の方向性として、多様性に対応できる一つの形として、示すことができればと思っております。そのためには、本年度から3ヵ年計画で取り組み、カリキュラムマネジメントまで、つながっていく研究へと進めているところです。

年度前半では、研究係や、教職員と意見交換をしたり、研究担当に千葉県教育委員会主催の教育課程研究協議会に参加してもらい研究担当の理解を深め、全体研究会で校長が講師となり全職員で新学習指導要領についての主旨や概要を学んだりしながら、キーワードの意味づけを探る等の新たな研究の骨子を築きあげてきました。

年度の中盤からは、講師を招聘して、新学習指導要領を意識した切り口で学力の3要素の観点を盛り込んだ指導案の形式を作成し、それに基づいた研究授業も展開して、全校研究会の中で、協議を深め、講師とともに課題や方向性を探り、ようやく今年度からの研究テーマ、3年間の研究計画、各研究グループの研究テーマや、研究の概要、キーワードとなる「富里版主体的・対話的で深い学びの学部段階表(試案)」がまとまってきました。

さらに、研究グループ毎に授業の充実をめざして授業改善に取り組んでいく考え方から研究計画の検討・作成までを行い、小学部では「生活単元学習における主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践(仮称)」。中学部「中学部作業学習の主体的・対話的で深い学び(仮称)」。高等部「高等部作業学習における主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践(仮称)」。AC学級では「卒業後の生活を意識したキャリアアップにつながる授業づくりと授業改善(仮称)」というテーマ設定までが、今回の研究紀要「時計台」という形になりました。次年度からが、本格的に私達の研究実践がスタートとなります。

この新たな取組に、多くの御示唆、御助言を頂ければ幸いです。最後に本校の研究を支えてくださった教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事 小倉京子先生に厚く御礼申し上げます。

平成30年3月

目 次

はじめに

平成29年度の研究

1 全校研究テーマ	-----	1
2 全校研究テーマ 設定の理由	-----	1
3 研究目的	-----	1
4 研究方法	-----	1
5 今年度の研究計画	-----	2
6 研究組織	-----	2
7 研究会の講師	-----	2
8 第2回全校研究会	-----	3
(1) 全校研究会記録		
(2) 受講者アンケート結果(抜粋)		
9 第3回全校研究会	-----	6
(1) 研究実践		
(2) 授業協議会記録(批評線含む)・授業についての講師指導		
(3) 講師による全校研究テーマに関する講話		
(4) 受講者アンケート結果(抜粋)		
10 本年度の研究まとめ(成果・課題)	-----	18
資料 新しい学習指導案の様式	-----	20

小学部研究部会

1 今年度の計画	-----	小1
2 研究方法	-----	小1
3 研究結果	-----	小2
4 本年度の研究まとめ (成果・課題・次年度の研究について)	-----	小6
資料 小学部普通学級の日課表	-----	小7

中学部研究部会

1 今年度の計画	-----	中1
2 研究方法	-----	中1
3 研究結果	-----	中2
4 本年度の研究まとめ (成果・課題・次年度の研究について)	-----	中12
資料 中学部普通学級の日課表	-----	中13

高等部研究部会

1 今年度の計画	-----	高1
2 研究方法	-----	高1
3 研究結果	-----	高2
4 本年度の研究まとめ (成果・課題・次年度の研究について)	-----	高7
資料 高等部普通学級の日課表	-----	高8

重複学級・訪問学級(AC学級)研究部会

1 今年度の計画	-----	AC1
2 研究方法	-----	AC1
3 研究結果	-----	AC2
4 本年度の研究まとめ (成果・課題・次年度の研究について)	-----	AC10
資料 重複学級の日課表	-----	AC13
資料 AC学級の自立活動について	-----	AC14

おわりに

研究同人

平成29年度の研究について

- 1 全校研究テーマ：主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善
～社会に開かれた教育課程をめざして～

2 全校研究テーマ 設定の理由

○これまでの研究について

本校では、平成27年度より「児童生徒の特性とニーズに応じた教育」を全校テーマとして2年間の研究に取り組んだ。そこでは、各研究部会で全校テーマの追求に適している授業を研究対象にし、教師がより意欲的に研究活動に取り組むことができるよう、研究の方法を工夫して取り組んできた。このことにより、成果として児童生徒一人一人に視点を当て、ニーズを把握し、個々に応じた指導目標や授業内容を検討・実施することができた。

○本校の現状と課題について

今年度、本校は栄特別支援学校との分離により、170名規模の学校となった。昨年度までは、過密状況で教室不足となり、様々な学習活動に制約を受けてきた。児童生徒の減少により学習環境が大幅に改善された。一方で、学習集団や指導形態の変更が求められることもあり、これらのことから教育活動の内容や指導体制の見直しが必要であると考えられる。

○学習指導要領の改訂に向けて

平成30年度より、新学習指導要領が随時、全面実施となる。現行の学習指導要領からの変更点や追加点等について職員間で研修に励み、日々の授業実践に反映していくことが必要となる。特に改訂のポイントの一つである「社会に開かれた教育課程」の実現が今後の特別支援学校に求められてくる。

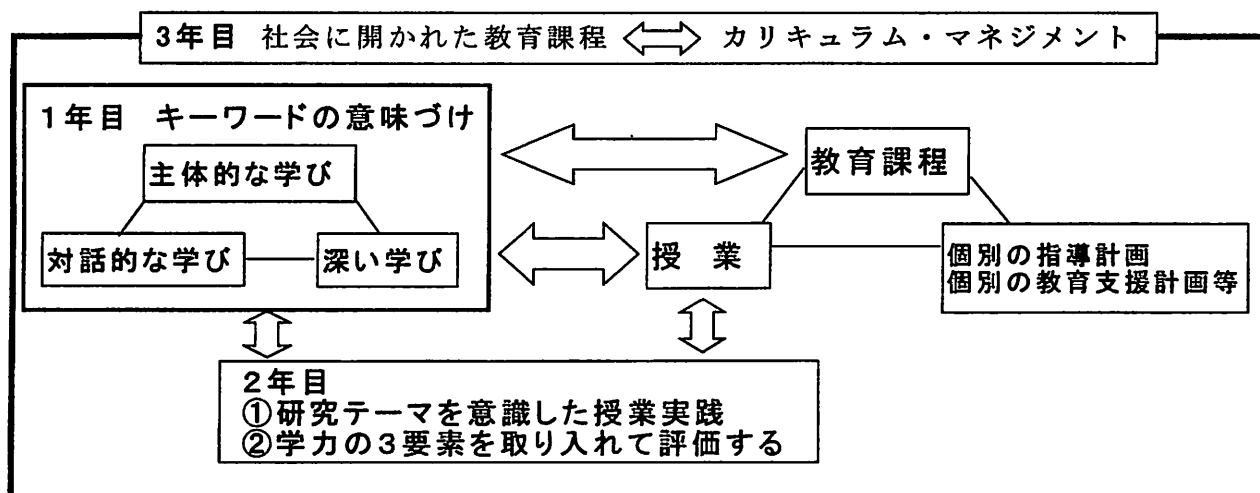
以上のことから、本校の現状と課題を踏まえ、教育活動の見直しを「主体的・対話的で深い学び」に視点を当て、「社会に開かれた教育課程」をめざしていくために、本テーマを設定した。

3 研究目的

- (1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。
- (2) 授業改善から「社会に開かれた教育課程」の編成をする。

4 研究方法

- (1) 研究期間は3年間とする。
- (2) 3年間の研究計画



年	研 究 内 容
1 年 目	【「主体的・対話的で深い学び」の意味づけをする】 ・次期学習指導要領について研修機会を設ける。 ・全校テーマを受けて、各研究部会ごとに「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」とはどのようなことなのかを検討する。 ・研究対象の授業を各研究部会で決める。 ・「主体的・対話的で深い学び」の意味づけをする。
2 年 目	【①研究テーマを意識した授業実践 ②学力の3要素で学習評価をする】 ・前年度に意味づけした主体的・対話的で深い学びの視点で授業を実践し改善する。 ・学習評価の方法を学力の3要素にし、授業に取り入れる。 ・主体的・対話的で深い学びの視点や学力の3要素等から教育課程の検討をする。
3 年 目	【社会に開かれた教育課程を編成する】 ・2年間の研究成果と課題を踏まえ、授業実践に取り組む。 ・2年目と異なる教科・領域で見直しに取り組む。 ・主体的・対話的で深い学びの視点や学力の3要素等から教育課程の見直しをし、「社会に開かれた教育課程」を編成する。

5 今年度の研究計画

月 日（曜日）	研 究 内 容
6 月 13 日（火）	・研究推進委員会
6 月 21 日（水）	○全校研究会① ・次期学習指導要領の現時点での概要説明 ・本年度の全校研究テーマについて提案
9 月 6 日（水）	○全校研究会② ・次期学習指導要領（主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善）についての研修会 【講師：本校校長 保科靖宏先生】
10 月～1 月	・各学部で「主体的・対話的で深い学び」の意味づけをしていく。 ・研究係会を適宜設け、各学部の進捗状況を報告し共通理解を図る。 ・研究対象の授業を各研究部会で決める。
11 月 2 日（木）	○全校研究会③ ・授業研究会（小学部重複学級 授業者：青柳耕平・鈴木百合子） ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について ・学力の3要素について【講師：小倉京子先生】
1 月～2 月	・まとめと実践報告集の原稿作成
2 月下旬	・原稿締切
3 月 2 日（金）	・研究推進委員会
3 月初旬	・印刷・製本・配布
3 月 7 日（水）	○全校研究会④ ・本年度のまとめと次年度の研究について

6 研究組織

〈研究推進委員会〉

校長、教頭、事務長、教務主任、副教務、部主事、研究主任、研究副主任

〈研究係会〉

各学部会の研究係

〈研究部会〉

小学部研究部会、中学部研究部会、高等部研究部会、AC学級研究部会

7 研究会講師

- ・全体講師：小倉京子先生（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事）

8 第2回全校研究会

(1) 全校研究会概要について

「平成29年度新特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領説明会」資料に焦点を当て抜粋

①日時：9月6日（水）15：30～17：00

②講師：本校校長 保科靖宏

○「第1編総則 第1章 教育課程の基準と改善の趣旨 第1節 改訂の経緯」について

- ・今回の学習指導要領改訂の大きな要因は、急激な社会の変化、いわゆる情報化、AI、グローバル化といったものである。アメリカの某学者の説明だと、「通常の子どもたちの教育も含めた2030年の社会では、65パーセントは、今の社会に存在していない職業に就くだろう」と言われる時代になった。大きな根底にあるのが、情報化、グローバル化への急激な変化の中で、必要な資質や能力を育む学校教育とは何か、教育内容はどうかあるべきかというのが、特別支援だけではなく、全部の学習指導要領改訂の大きなポイントになる。
- ・その中で、主体的・対話的で深い学び、社会に開かれた教育課程、カリキュラム・マネジメント、新しい時代に必要となる教科や科目の新設、目標の見直し、外国語教育の教科、道徳の特別教育化や高等学校では、新科目といったものが出てきている。
- ・何ができるようになるか、何を学ぶか、どのように学ぶかこの辺が大きなキーワードになる。

○「社会に開かれた教育課程」について

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会との連携・協働によりその実現を図っていく。



<社会に開かれた教育課程>

- ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ②これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

○「特別支援学校小学部・中学部学習指導要領 総則編」の構成について

第2節 小学部及び中学部における教育の基本と教育課程の役割	何ができるようになるか
第3節 教育課程の編成	何を学ぶか
第4節 教育課程の実施と学習評価	どのように学ぶか
第5節 児童又は生徒の調和的な発達の支援	児童生徒の発達をどのように支援するか
第6節 学校運営上の留意事項	実施するために何が必要か

○「育成を目指す資質・能力の3つの柱」について

- ・「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を総合的に捉えて構造化するために以下の3点が重要となる。

- | |
|--|
| ①「学びに向かう力・人間性の涵養（かんよう）」
どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか |
| ②「知識・技能」
何を理解しているか何ができるか |
| ③「思考力・判断力・表現力」
理解していること・できることをどう使うか |

◎この3点は教科の目標や評価に関係してくる。今回の学習指導要領では、「3つの柱」として内容が整理されている。

◎涵養とは、土が水に染みこむようにゆっくり育てるという意味である。

○「主体的・対話的で深い学び」のイメージについて

- ・「平成29年度新特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領説明会」の資料では、主体的・対話的で深い学びについての具体的な授業の例が出てきている。「主体的な学び」は特別支援学校だけでなく、小学校・中学校・高等学校に大きく影響がある。各学びについて、文部科学省では以下のように意味づけている。

①主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

②対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

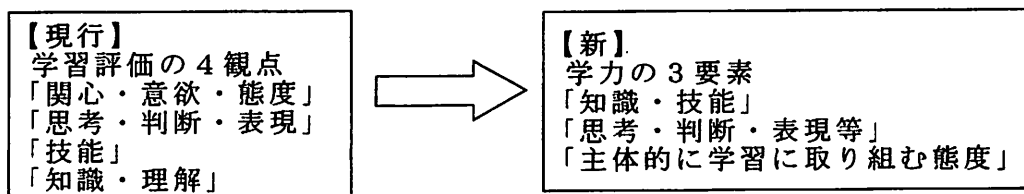
③深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

- ・これらの3つの学びは特別支援学校の「合わせた指導」や「生活単元学習」等で取り組んでいる。小学校、中学校、高等学校、特別支援学級の方ではまだ取り組みが浅い。特別支援学校でも教科、領域を合わせた指導だけでなく、教科指導であったり、学級活動であったり、3つの学びの視点で授業をしているかどうかこれから大きなポイントになる。

○「学力の3要素」について

- ・現行の学習指導要領では学習評価を4観点に整理していたが、今後は「学力の3要素」として、3観点での評価となり、目標等を整理するのに重要なポイントとなる。これをPDCAサイクルに基づき、確認していく形をとっていくことが大きな変化となる。



- 「インクルーシブ教育システムの推進により、障害のある子供たちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視」について

①学びの連続性を重視した対応

- ・今までの特別支援学校の教育課程、小学校、中学校、特別支援学級の教育課程はあるが、実際には間の発達段階であったり、障害のある子どもたちのそれぞれに応じた教育課程の充実をしなければならないことが、初めて明記されている。今回の学習指導要領では、各学部の段階も改訂されている。

学部	段階	各教科の目標・内容	留意点
小学部	3	育成を目指す資質・能力の3つの柱に基づき整理	小学部の3段階に示す各教科又は外国語活動の内容を習得し目標を達成している者、中学部の子どものうち中学部の2段階に示す各教科の内容を習得し目標を達成している者については、子どもが就学する学部に対応する学校段階までの小・中学校学習指導要領における各教科等の目標及び内容の一部を取り入れることができる。
中学部	2		

②一人一人の障害の状態等に応じた指導の充実

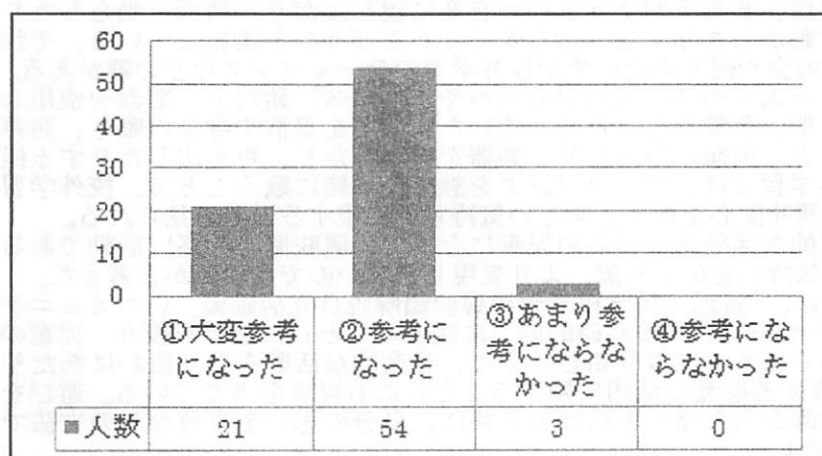
初めて自立活動に、「障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること」を明記。発達障害に視点を当てた項目を位置づけた。

③自立と社会参加に向けた教育の充実

生涯を通して主体的に学んだり、スポーツや文化に親しんだりして、自らの人生をよりよくしていく態度を育成することとある。これは東京オリンピック・パラリンピックの影響を受けていると考えられる。

(2) 受講者アンケート結果

- ①本日の研修をとおり、日々の授業実践や研究を進めていく上で参考になりましたか。



②「本研修の感想や自分自身が取り組まなければならないと考えた点」について

- ・今回の研修会をとおり、学習指導要領の改訂が今後の子供たちへの指導・支援にも影響があるため、研修後も資料に目をとおり必要があると感じた職員が多数いた。また、今回の改訂でキーワードとなる「社会に開かれた教育課程」「主体的・対話的で深い学び」「育成を目指す資質・能力」「学力の3要素」等を文部科学省からの資料を基に概ねイメージすることができた。一方で、実際にこれらを本校で実践していくとなると、時間をかけて今回の改訂内容の理解を一層深めていく必要があるとの意見があった。

③「本研修をとおしての意見」について

- ・本校は地域との結びつきが弱いと感じる。「社会に開かれた教育課程」を考えていくときに、この現状をどのように改善していくかが大きな課題である。
- ・学習指導要領を何度も読み返すことが少ないため、このような研修の機会があるととても良い。引き続き、改訂された点（高等部の学習指導要領についても）の研修会をお願いしたい。

9 第3回全校研究会
(1) 研究実践

小学部重複学級 自立活動 学習指導案

日 時 平成29年11月2日(水)
11:00~11:45
場 所 小学部 重複1組教室
指導者 T1 T2 介助員

1 題材名 自立活動「おんがくであそぼう～なんのおと?～」

2 学習集団について

本学級は小学部2年生男子1名、3年生男子1名、6年生男子1名の計3名である。3名全員が日常生活全般において、一対一での支援が必要であり、そのうち1名が医療的ケア(気管切開部への吸引と胃ろうからの栄養注入)を必要としている。

身体面では、首の座りが不十分であったり、過緊張が見られたりする児童がいる。移動の際は、教師の支援があれば歩行が可能な児童が2名、バギーを使用している児童が1名いる。学習時は、座位保持椅子を使用することで座位をとれる児童、自力で座位をとれる児童と実態は多様である。手の操作面については、目的の物に手を動かす際、筋緊張により時間がかかる児童がいるが、3名とも目的の物に対して手を伸ばして触れる、握るなどの操作をすることができる。

認知面では、視覚については個人差があるものの、注視・追視をしたり、見比べたりする様子が見られる。聴覚については、音や声のする方へ顔を向ける児童や突然の大きな音に対して声を出して驚き、筋緊張が強まる児童がいる。また、好きな歌や言葉が聞こえると顔を上げたり笑顔を見せたりする児童が多い。

コミュニケーション面では、自分の思いを言葉で表現することが難しく、教師が表情や視線で気持ちをくみ取ることや取りが成立する児童や、自分の思いを声や身振り動作で伝えることができる児童がいる。友達同士のやりとりは教師を介して成立することが多いが、学習時、友達の様子を気にしている様子が見られるようになってきている。表出の仕方はそれぞれであるが、人とのかわわりを喜び、楽しんでいる様子が見られる児童が多い。

3 題材について

小学部重複学級では、6月下旬より季節の音楽に親しんだり、楽器を鳴らしたり、音楽が流れている中で身体を動かしたりする「おんがくであそぼう」を実施している。それ以外の音楽的な活動として、朝の会や帰りの会の歌や校外学習のテーマソングなどの歌がある。

朝の会の歌では、一人ずつ音の出るおもちゃやマラカス、鈴などの楽器を使用して取り組んでいる。楽器の音、形、色等から、自分が使いたい楽器を表情や身体の動き、発声等で選択している。歌が始まると、笑顔になったり、楽器を鳴らしたり、声を出したりする様子が見られている。また、校外学習では、テーマソングを教師と一緒に歌うことで、校外学習の日程を知ると共に、期待感や興味関心を抱き、楽しい気持ちを表現する様子も見られる。

以上のように音楽的な活動は、3名の児童にとって、興味関心の高い活動であると思われる、教師や友達に自分の気持ちを伝える際、より表現しやすいのではないかと考えた。

そこで、本題材では、「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」のコミュニケーションの項目(1)「コミュニケーションの基礎的能力に関すること」に焦点を絞り、児童の興味関心が高い「おんがくであそぼう」に取り組む。また、音楽的な活動に取り組むにあたり、環境の把握の項目(1)「保有する感覚の活用に関すること」にも視点を当てている。遊びを通し、やりとりをする対象を教師から友達へと広げると共に、自分の思いを自分なりの方法で表現する力をさらに引き伸ばしたい。

また、自分が鳴らしたい楽器を選択したり、クイズ形式の活動を取り入れたりすることで、児童の興味を引き出し、コミュニケーションをとる対象を普段かかわることの多い担任だけでなく、友達にも広げられるようにしている。楽器を介して自分の思いを友達にも表出できる力をねらっている。

学習内容は、【はじまりの歌】【楽器当てゲーム】【合奏】の3部で構成し、それぞれの場面でねらいを設定し取り組んでいる。

【はじまりの歌】では、その日ペアになった教師と歌に合わせて身体の各部位に触れる「からだコンサート」という手遊びに取り組む。教師と触れ合うことで、お互いに楽しく音楽が始められるようにすることをねらっている。また、手の平にも触れることで、手を使う活動の準備運動となるようにしている。

【楽器当てゲーム】では、いろいろな楽器の音を聴き、楽器の音、形、色等を知ることができる、「なんなんだーゲーム」に取り組む。児童が出題者となり、2～3種類の楽器から1つ選択することで、選択することの楽しさや役割交代の楽しさを体験することができる。また、回答者には出題者が鳴らした音から楽器を考える場面を設けることで、楽器を選択することができる、友達同士のやりとりをねらいとしている。

【合奏】では、季節の歌である「むしのこえ」に取り組む。「なんなんだーゲーム」で使用した楽器から自分が使いたい楽器を選択し、使用するようにする。また、「むしのこえ」の歌詞を

変え、自分が鳴らす順番がわかるようにしていく。3名の児童が鳴らし終えたら、最後は全員で鳴らし、自分の楽器の音や、友達の楽器の音に気付くことができるようにすることをねらいとする。

これらの活動を通して、児童が自分なりの方法で気持ちを表現することで、気持ちが伝わる喜びを感じると共に表出がより豊かになって欲しい。また、自分の思いを教師や友達に伝える表出方法を獲得し、学部や担任、集団が変わっても同じように表出して、様々な人とやりとりする力につなげ、卒業後の自立及び社会参加への質の向上をめざしていけるようにしたい。

4 題材の目標

- ・自分が使いたい楽器を選択することができる。(知識・技能)
- ・様々な楽器の音の違いに気付くことができる。(思考・判断・表現力)
- ・音楽の活動を通して、教師や友達と自分なりの方法でやり取りすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

5 指導計画

時数	月日	学習内容	学習のねらい
1	9 / 8	・からだコンサート ・なんなんだーゲーム 【タン布林・鈴・マラカス】	・「からだコンサート」では、ペアの教師と一緒に手遊び歌に取り組むことができる。 ・「なんなんだーゲーム」のルールを知ることができる。
2	10 / 13	・からだコンサート ・なんなんだーゲーム 【タン布林・鈴・マラカス】	・「からだコンサート」では、ペアの教師と一緒に手遊び歌に取り組むことができる。 ・「なんなんだーゲーム」では出題者となった時に、2種類の楽器から自分が鳴らしたい楽器を選択することができる。
3	10 / 17	・からだコンサート ・なんなんだーゲーム 【タン布林・鈴・マラカス】	・「からだコンサート」では、ペアの教師と一緒に手遊び歌に取り組むことができる。 ・「なんなんだーゲーム」では出題者となった時に、2種類の楽器から自分が鳴らしたい楽器を選択することができる。
4	10 / 25	・からだコンサート ・なんなんだーゲーム 【タン布林・鈴・トライアングル】 ・むしのこえ	・「からだコンサート」では、ペアの教師と一緒に手遊び歌に取り組むことができる。 ・「なんなんだーゲーム」では出題者が鳴らした楽器の音を聴き、2種類の楽器から選択することができる。 ・「むしのこえ」の合奏では、自分が使いたい楽器を選択することができる。
5	10 / 30	・からだコンサート ・なんなんだーゲーム 【タン布林・鈴・トライアングル】 ・むしのこえ	・「からだコンサート」では、ペアの教師を選び、一緒に手遊び歌に取り組むことができる。 ・「なんなんだーゲーム」では出題者が鳴らした楽器の音を聴き、2種類の楽器から選択することができる。 ・「むしのこえ」の合奏では、自分の順番になったら楽器を鳴らすことができる。
6	11 / 2 (本時)	・からだコンサート ・なんなんだーゲーム 【タン布林・マラカス・トライアングル】 ・むしのこえ	・「からだコンサート」では、ペアの教師を選び、一緒に手遊び歌に取り組むことができる。 ・「なんなんだーゲーム」では出題者が鳴らした楽器の音を聴き、2種類の楽器から選択することができる。 ・「むしのこえ」の合奏では、友達の演奏に気付くことができる。
7	11 / 9	・からだコンサート ・なんなんだーゲーム 【タン布林・マラカス・トライアングル・鈴】 ・むしのこえ	・「からだコンサート」では、ペアの教師を選び、一緒に手遊び歌に取り組むことができる。 ・「なんなんだーゲーム」では出題者が鳴らした楽器の音を聴き、3種類の楽器から選択することができる。 ・「むしのこえ」の合奏では、友達の演奏に気付く、視線を向けることができる。

6 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・「なんなんだーゲーム」では出題者が鳴らした楽器の音を聴き、2種類の楽器から選択することができる。(知識・技能)
- ・「むしのこえ」の合奏では、友達の演奏に気付くことができる。(思考・判断・表現力)
- ・「からだコンサート」では、一緒に手遊びをする教師を選択することができる。
(主体的に取り組む態度)

(2) 本時の展開

時配	学習活動	支援上の留意点	教材・教具
1分	1 はじめのあいさつをする。	・ 児童一人一人の表情や身体の動き、発声などに応じて「これから」「おんがくであそぼうを」「はじめます」と教師が言葉で支援し、あいさつを行う。(T 1～介)	
1分	2 今日の学習内容を知る。 ・ 活動内容が提示されたホワイトボードに注目する。 ・ T 1の話を聞き、本時の学習内容を知る。 (学習内容) ① からだコンサート ② なんなんだーゲーム ③ むしのこえ	・ 学習の見通しが持てるようにホワイトボードに写真やイラスト入りの進行カードを提示する。(T 1) ・ 児童がホワイトボードに注目できるように座席を適宜移動する。(T 2、介)	・ ホワイトボード ・ 進行カード
7分	3 「からだコンサート」をする。 ・ 「からだコンサート」を一緒に取り組む教師を選ぶ。 ・ 「からだコンサート」に取り組む。 ・ Aは進行カードを裏返す。	・ 児童の前で手を伸ばし「一緒にやろう」と言葉をかけ、視線、発声、身体の動きを待つ。(T 1～介) ・ 表情や身体の動き、発声等の表出が出やすいように児童の正面に座る。 ・ 楽しい雰囲気が感じられるように音楽に合わせて手の平や身体に触る。(T 1～介) ・ 教師と一緒に触れ合うことができた児童がいたら適宜称賛する。(T 1～介) ・ 進行カードを裏返すことができるように、クリップを付けておく。	・ CD ・ CD デッキ ・ 歌詞カード ・ 進行カード ・ クリップ
20分	4 「なんなんだーゲーム」をする。 ・ 座席を移動する。 ① 今日の楽器を知る。 (今日の楽器) ・ タンブリン ・ マラカス ・ トライアングル ② 出題者を決める。	・ 楽器が見やすいように座席を移動する。(T 1～介) ・ 楽器の音、形、色がわかるように一つずつ提示しながら音を鳴らす。(T 1) ・ 「一番最初にやりたい人？」と募ると同時に出題係の目印となるネックレスを提示し、意欲を高めるようにする。(T 1) ・ 視線、発声、身体の動きがあった児童から1～3番を決める。(T 1) ・ 順番がわかるように顔写真入りの順番表を提示し、顔写真カードを貼る。(T 1)	・ タンブリン ・ マラカス ・ トライアングル ・ 出題係の目印となるネックレス ・ 顔写真入りの順番表 ・ 児童机

③出題者はパーティションの後ろに移動する。

④出題者は3種類の楽器から自分が鳴らしたい楽器を選択する。

⑤準備ができたことを回答者に伝え、出題者は「なんだ！なんだ！なんのおと？」のかけ声を聞いてから楽器を鳴らす。

⑥回答者は楽器を選択する。
・Aは3種類の楽器、BとCは2種類の楽器から選択する。

⑦答え合わせをする。
・出題者は「なんだ！なんだ！なんのおと？」のかけ声と共に、楽器を鳴らす。

※出題者を変えて③～⑦を3回繰り返す。

・Aは教師と一緒に青椅子を持って移動する。(T2)
・BとCは教師が座位保持椅子を持って移動する。

(T1・介)

・教師が一つずつ楽器の音を鳴らしなが視線、発声、身体の動きを待つ。

(T1～介)

・タンブリンを鳴らす際、AとBはたたきやすいように教師が必要に応じて持つ。Cは筋緊張が強い場合、教師が手を添えながら一緒にたたく。

(T1～介)

・マラカスを鳴らす際、AとBは一人で鳴らせるように、持ち手を指し示したり、教師と一緒に触れたりして持ち手の位置を伝える。Cは教師と一緒に持ち手を持つようにして鳴らす。

(T1～介)

・トライアングルを鳴らしやすいように、どっちもクリップで机とトライアングルを挟み、浮かせる。

・AとBは、必要に応じて教師が手を添えながら鳴らす。Cはトライアングルの位置を調整し、教師が手を添えながら一緒に鳴らす。

(T1～介助)

・個別に「どの楽器かな」と言葉をかけ、一つずつ楽器を鳴らしなが提示して視線、発声、身体の動きを待つ。(T1～介)

・反応が少ない時や、困っている様子が見られた時は、出題者に楽器を鳴らしてもらおうようにする。

・音の違いに気付くことができるように、出題者と回答者が同時に音を鳴らすようにタイミングを伝える。

(T1)

・適宜、出題者と回答者が楽器を見やすいようにパーティションをずらす。

(T1～介)

・正解時は大いに称賛する。

・不正解時は、出題者が選んだ楽器と自分が選んだ楽器を比べたり、音を鳴らしたりして再度考える場面を設定する。(T1)

・1回終わる毎に順番表から顔写真カードを剥がす。

(T1)

・パーティション

・どっちもクリップ

	・Cは進行カードを裏返す。	・進行カードを裏返すことができるように、クリップにリングを付けておく。 ・リングを握り続けてしまった際は、教師が手を添えながら「ぱっと開こう」と言葉をかけ、放すのを持つ。(T 1～介)	・進行カード ・クリップ ・リング
15分	5 「むしのこえ」の合奏をする。 ・「なんなんだーゲーム」で使った楽器から使いたい楽器を選択する。 ・合奏に取り組む。 ・Bは進行カードを裏返す。	・個別に「どの楽器かな」と言葉をかけ、一つずつ楽器を鳴らしながら提示して視線、発声、身体の動きを待つ。(T 1) ・友達の様子が見える位置に移動する。(T 1～介) ・自分が楽器を鳴らす順番だとわかるように顔写真入りの歌詞カードを掲示する。 ・自分の順番が来たら、T 1が「〇〇さんだよ」と言葉をかけ、楽器を鳴らすのを待つ。(T 1) ・進行カードを裏返すことができるように、クリップにリングを付けておく。 ・進行カードに注目できるように目の前に提示する。(T 1)	・タンブリン ・マラカス ・トライアングル ・キーボード ・顔写真入りの歌詞カード ・進行カード ・クリップ ・リング
1分	6 おわりのあいさつをする。	・児童一人一人の表情や身体の動き、発声などに応じて「これで」「おんがくであそぼうを」「おわります」と教師が言葉で支援し、あいさつを行う。(T 1～介)	

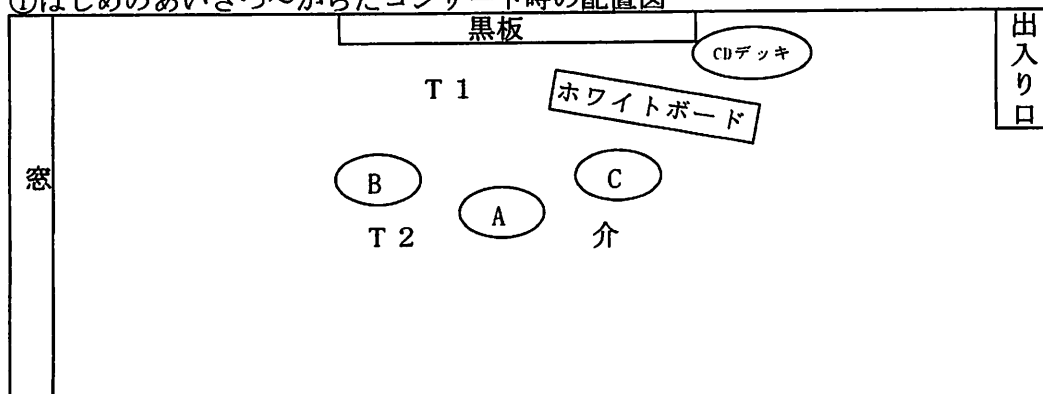
(3) 本時までの様子、目標、手立て

児童	本時までの様子	目標	手立て
A	・人との関わりは好きであるが、人見知りし、担任など身近な人との関わりが中心である。また、気持ちが向かない、あるいは意に沿わない場面では強く抵抗することもある。慣れていない人からの関わりに対して、顔を背ける、手や足でさえぎる等の様子が見られる。 ・発語はないが、内言語が豊かで、言葉による指示を理解し、自分の気持ちを写真カード、指差しや発声等で伝えることができる。「からだコンサート」の時、「誰とやりますか?」と尋ねると、指差しや握手で答えることができる。 ・「なんなんだーゲーム」のかけ声が始めると、期待感で笑顔になる。カーテンに隠れた楽器の音に意識を向け、身近な楽器を2つ提示すると、不確実ではあるが、正解を選ぶことが多い。 ・「合奏」では、使いたい楽器を	・一緒に手遊びをする教師を選び、自分の体の部位に触れたり、教師の体に触れたりしながら、楽しむことができる。 ・楽器の音に意識を向け、2種類の楽器から指差しで選ぶことができる。 ・友達が持っている楽器を見たり、触ろうとしたりすることができる。	・机に顔を伏せる等、気分が乗らない時は、本児の好きな「なんだ、なんだ、なんの音?」というかけ声で盛り上げる。 ・「なんなんだーゲーム」のかけ声の後、教師の耳をカーテンの方へ向け、音に注目するように身振り動作を示す。どの音か迷っている時は出題者が音を出した後、2種類の楽器を教師と一緒に鳴らして音を確認する。 ・合奏を始める前に、友達が持っている楽器の音を鳴らし、友達を意識するきっかけを作る。演奏中は、そばにいる教師が友達の様子を指差しで伝えるようにする。

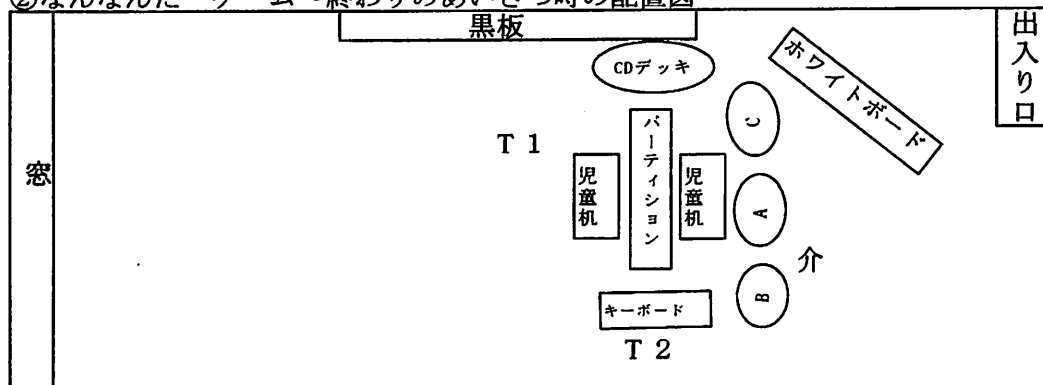
	選ぶことができる。鳴らす順番を意識することはまだ難しい。また、友達演奏よりも、自分で音を出して楽しんでいる様子である。		
B	・そばにいる教師の髪や体に触れて、人を意識する様子が見られるが、音の出る玩具を耳に当てて聴く、首回りのタオルに触れる等、1人遊びが多い。 ・「からだコンサート」では「誰とやりますか?」と尋ねながら、教師が手を差し出すと、一瞬教師の方を見て、どちらかの手に触れることができる。 ・「なんなんだーゲーム」では音を聴き分けることはまだ難しく、2つの楽器を提示すると、自分の好きな楽器を選んでいる様子である。 ・「合奏」では少しの間、楽器を振って音を楽しむことができるが、口で感触を味わったり、すぐに投げたりして、友達を意識することは難しい。	・目の前に並んだ教師の顔を注目し、どちらか一方の教師の手に触れて選ぶことができる。 ・視線や表情等で音に気づいたことを伝えたり、教師と一緒に楽器を選んだりすることができる。 ・友達が演奏している時に、教師と一緒に友達の方を見ることができる。	・教師の手に触れたら、「○○先生だよ」と言葉をかけ、再度教師の方を見る様子が見られたらしっかりと握手する。 ・本児が楽器に触れたら、教師と一緒に持って鳴らし、出題者も楽器を鳴らして、音が同じ、あるいは違うことを確認する。 ・3人の児童が半円状に位置し、お互いに見やすいようにする。演奏している友達の方を指差しながら言葉かけし、注目をするのを待つ。
C	・日常生活動作は全介助であるが、関心のある方へ顔を向けたり、手を伸ばしたりすることができる。言葉かけに対して発声や視線、表情で答えることができる。 ・「からだコンサート」では「誰とやりますか?」と言葉かけしながら、二人の教師が前に立ち、手を差し出すと、時間はかかるが左手を動かして、教師の手に触り、気持ちを伝えることができる。 ・「なんなんだーゲーム」では「今の音、聞こえた?」など言葉かけすると、音を意識したような表情になることがある。また、2種類の楽器を提示すると、自分で左手を動かして、楽器に触れることができる。 ・「合奏」では左手で楽器を持つように介助すると、曲が終わるまで、握り続けることがある。友達が演奏する楽器の音を意識するのはまだ難しい。	・二人の教師のうち、どちらかの手に触れたり、教師の方を見て声を出したりすることができる。 ・出題者が鳴らした楽器の音に意識を向け、2種類の楽器から触れたり、視線を向けたりして選ぶことができる。 ・友達が演奏している時に、友達の方を見ることができる。	・「誰とやりますか?」と言葉かけしたら反応を待つ。反応が出ない時は再度言葉かけをする。教師の手に触れて伝えることができたなら、視線を合わせたり、さらに発声できるように「はい」と言葉かけをしたりする。 ・音に気づかない時は「今の音は何?」など言葉かけしたり、再度音を出したりする。視線や手が動かない時は、「こっこの音かな?」などと言葉かけしながら、2種類の楽器の音を教師が鳴らし、選択しやすいようにする。 ・3人の児童が半円状に位置し、お互いに見やすいようにする。演奏している友達を意識するように指差したり言葉かけをしたりする。

(4) 配置図

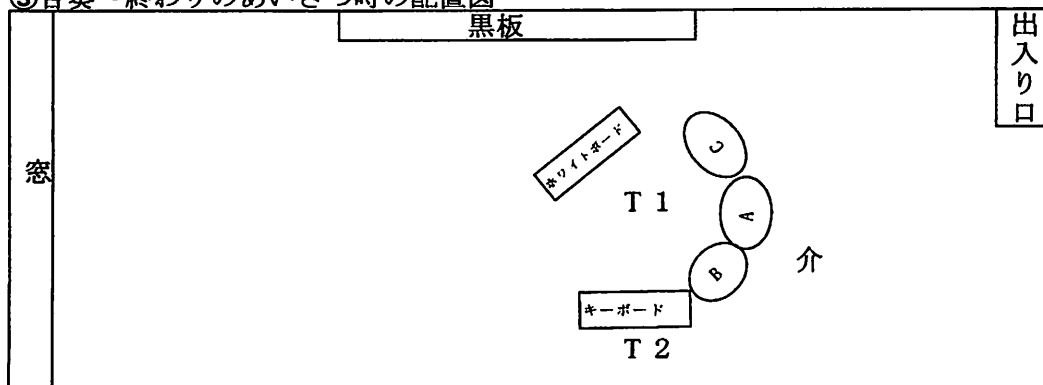
①はじめのあいさつ～からだコンサート時の配置図



②なんなんだーゲーム～終わりのあいさつ時の配置図



③合奏～終わりのあいさつ時の配置図



(5) 個別の評価

① 児童の評価 (◎・・・できた ○・・・支援を変えたらできた △・・・できなかった)

児童	目標	評価	記入欄
A	・一緒に手遊びをする教師を選び、自分の体の部位に触れたり、教師の体に触れたりしながら、楽しむことができたか。		
	・楽器の音に意識を向け、2種類の楽器から指差しで選ぶことができたか。		
	・友達が持っている楽器を見たり、触ろうとしたりすることができたか。		
B	・目の前に並んだ教師の顔を注目し、どちらか一方の教師の手に触れて選ぶことができたか。		
	・視線や表情等で音に気づいたことを伝えたり、教師と一緒に楽器を選んだりすることができたか。		
	・友達が演奏している時に、教師と一緒に友達の方を見ることができたか。		
C	・二人の教師のうち、どちらかの手に触れたり、教師の方を見て声を出したりすることができたか。		
	・出題者が鳴らした楽器の音に意識を向け、2種類の楽器から触れたり、視線を向けたりして選ぶことができる。		
	・友達が演奏している時に、友達の方を見ることができたか。		

② 教師の評価

○：できた

△：改善が必要

本時の目標	評価内容【3つの視点】	評価	改善点
・「からだコンサート」では、一緒に手遊びをする教師を選択することができたか。	・児童の表出を促したり、待ったりすることができたか。【主体的な学び】		
・「なんなんだーゲーム」では出題者が鳴らした楽器の音を聴き、2種類の楽器から選択することができたか。	・児童が教師や友達と音楽的な活動を通し、やりとりする場面を設定することができたか。 【対話的な学び】		
・「むしのこえ」の合奏では、友達の演奏に気付くことができたか。	・児童が友達の演奏に気付くことができるような支援をすることができたか。 【深い学び】		

7 資料（自立活動要素表）

【題材の目標】 ・音楽の活動を通して、教師や友達に自分なりの方法でやり取りすることができる。 ・自分が使いたい楽器を選択することができる。 ・様々な楽器の音の違いに気付くことができる。
--

【題材目標を達成するために必要な項目の選定】					
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 情緒の安定に関すること。 (2) 状況の理解と変化への対応に関すること。	(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。 (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。 (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。	(1) 保有する感覚の活用に関すること。 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること。 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。 (2) 言語の受容と表出に関すること。
本時の指導目標					
	・「からだコンサート」では、一緒に手遊びをする教師を選択することができる。	・「なんなんだーゲーム」では出題者が鳴らした楽器の音を聴き、2種類の楽器から選択することができる。	・「むしのこえ」の合奏では、友達の演奏に気付くことができる。		

(2) 授業協議会記録

①日時：11月2日(木) 15:30～17:00

②講師：千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事 小倉京子先生

③授業協議会記録(批評箋を含む)

○授業者より反省

	内 容
T 1	・音楽の活動は子どもたちが好きな活動ゆえに設定した。反省として、手順表を動かしたときに板が倒れたため基本的な安全面の配慮をしていきたい。 ・指導案に「評価について」を新しく入れてみた。意見をもらいたい。 ・Aさんは、楽器を選ぶことはできたが、前半楽しくない活動になってしまったと思う。合奏については、3回目の取り組みのため、周囲に意識が向かず、△の評価である。 ・Bさんは、選択の場面で教師の顔に注目することができた。合奏の目標である「友達の方を見る」ことはできず、授業が2回目と馴染みのないことから△評価である。 ・Cさんは1、2番目の目標は概ねできた。合奏の目標は少し友達の方を見ることができたため○の評価である。 ・教師の評価では、1つ目、2つ目は概ねできた。合奏の方は改善が必要。動線、教材の配置など場の設定の改善が必要。
T 2	・実態の幅が広いが、人との関わりが広がり成長してきている。 ・介助員が入る学級ではあるが、なかなか打ち合わせができないのが現状。しかし、子どもの発信したことなどについては言語化し、情報交換しながら阿吽の呼吸をとれるようになっている。

○質疑・応答

質疑	応答
・児童は、気持ちが不安定になったときも自力で気持ちを切り替えることができていた。授業内で使用した楽器はなぜこの3種類にしたのか。 ・今回の授業を通して深い学びを意識した点はどのあたりなのか。また、1年間を通して目標はどこなのか。	・タンブリン、マラカスにおいては日頃から朝の会で使用しているため。トライアングルにおいては日頃あまり触れることのない楽器を選び、さらに両手を使う楽器ということでこの3種類の楽器を使用した。 ・楽器当てゲームで使用した楽器を使い、合奏に取り組みれば、1つの深い学びになると考えている。年間を通してと考えると、授業内だけでなく、学校生活全般において、教師や友達に主体的に関わることができるようになればと考えている。

○意見・改善点

・「虫の声」では虫のお面を着けたら、動機付けとなり、児童にとってさらに楽しい授業になったのでは。 ・楽器では自分で動かす→自分で鳴らせた→またやりたい(違う楽器もやりたい、こういう風に鳴らしたい)という流れになれば、主体的な学び、深い学びにつながると思う。 ・「楽器当てゲーム」ではパーティションの高さが友達同士のやり取りを邪魔していないか気になった。出題係の児童は、出題すると回答者の反応が気にならないのか。手元だけ隠し、お互いの視線が合う余地があるように低めのパーティションにするのはどうか。(刺激を整理する都合でお互いの視線をさえぎっているのなら別だが)
--

○指導案について (◎：良い点 △：改善点)

- ◎評価の観点や支援の評価がしっかりと記載されることで、確実なPDCAサイクルにつながっていくと思う。
- ◎授業の中で、一人一人の児童の実態に応じた目標を立てて取り組まれていると感じた。3人の児童のことを知らない人が指導案を読んでもわかりやすく、児童の実態などが細かく丁寧に書かれていると思った。また3人の児童の特性に合わせてコミュニケーションの部分を取り入れた音楽の授業を展開されていてとても良い。
- ◎個別の評価について一人一人何が達成できて何が達成できなかったのか一目でわかる評価の仕方だと思った。評価がわかりやすいことで、教師の次の授業への工夫や手立てなど考えやすくなると感じた。
- ◎目標（題材・本時とも）に対して、研究的な視点（主体的・対話的で深い学び）と自立活動の視点（6区分）を合わせて考えるので、大変だと思うがまとまっていた。
- △音楽的な観点と直結した認知的な目標の設定と評価を記載しても良かった。
- △教師の評価は大切だが載せるかは検討が必要に思う。

②授業についての講師指導

- 「からだコンサート」では、3人の教師から1人を選択する場面であったが、Aさんは先に選ばれた教師を選んでしまった。選びたい先生を選べなかったため、暗い気持ちのスタートになってしまった。選択の余地がなかった時に、「2回目でやろう」は良くない。選択が生きない選択は良くない。改善策として、1回目に残った教師から選び、そのかわり2回目は最初を選ぶようにするというのはいかがか。
- 今日のAさんは上手くクールダウンをし、横になりながらコミュニケーションをとり、最後まで授業に参加し、よく頑張っていた。その場その場で教師が対応を変えて、子どもが学習に取り組めるようにした。指導案どおりではないがそれが良い。また、Aさんは意識レベルが高く、今日の学習内容がよくわかっていた。パーティションは椅子に乗れば楽器が見えることがわかっていた。彼は3つの楽器全てがわかるためこの課題を超えている。ただ、Aさんに全てを合わせることはできないので、出題者係にすると良い。
- 合奏の「友達の演奏に気付く」という目標は高度である。教師達が最後、〇〇君が鳴らしたね！と意味づけ、返せば良い。いつものように返してあげれば良い。
- 授業中、教師の言葉かけが良い。全員わかりやすい。子ども達がどう思っているか（内言語を拾い）を言葉にして返すのは良い。子どもの言葉を育てる。教師が明確な意図を持つことで子どもに伝わるようになる。言葉になっていない子どもの思いに言葉を添えて、言葉を増やしていくことが大切である。最後に、子どもの名前を呼ぶ際「〇〇さん」「〇〇くん」付けを徹底していて良い。学校全体がそうである。今後も心がけてほしい。

(3) 講師による全校テーマに関する講話

- ・次期指導要領では、自立活動についてはほとんど変わっていない。子ども達の障害などを理解して主体的に学習に取り組んで、力を発揮し、よりよく活動できるようにするための自立活動。そのために具体的なテーマを設定して行うことが大事である。できないことに注目するのではなく、できることに着目して主体的にできるようにする。
 - ・知識・技能などの項目については今行っている授業がどこにあてはまっているかを整理していくことが大切である。主体的な学び、対話的な学び、深い学びはバラバラではなく、スパイラルのように関連し合って伸びていくものである。
 - ・以前から目指していた「生きる力」をさらに改善したものが、「育成すべき資質・能力の3つの柱」ということなので、新しく始まったものではない。
- 今まで積み重ねてきたものを改めてまとめ直したものが主体的で対話的な学びにつながっていく。新しい技術ということではなく、あくまでも授業実践の視点。振り返りの場面を授業実践に盛り込むことで、対話的な授業になっていくので、1つの授業で「深い学びが少なかったね」ということにするのではなく、あくまでも見方・考え方のひとつとして別個にせず

意味づけしていくと良い。

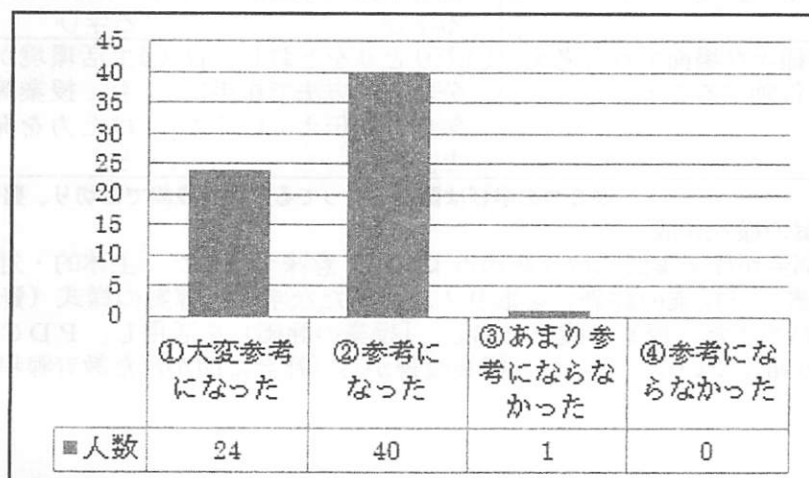
- ・「教育課程と指導計画の接続について」は、各学部の教育目標を組織して授業時数を組み年間計画を組む。これらを踏まえて、週や単元の計画ごと、個別まで落とし込んでいく。
- ・「観点別学習状況の評価について」は、4観点は、平成22年に出たものが元になっている。知的障害については「必ずやらなければならない」ではない。今回については三要素に沿った内容の整理をし、各学校で抑えていくのは良い。今後、学習指導要領を受けて作成される「学習評価の工夫・改善」の資料を参考にすること。
- ・「自立活動」については、小学校、中学校の自立活動をわかりやすく行っていくために、手順が整理された。これは義務ではなく、このように考えていくと良いというもの。

①	・実態把握、長所や良さを見たうえで課題を作る。
②-1	・自立活動の区分に即して整理する。
②-2	・これまでの学習上から整理する。
②-3	・その姿からどのような未来が良いか整理する。(卒業後を見据えて)
③	・その未来に向けて課題を整理する。
④	・関連する課題を整理し、中心的な課題を導き出す。
⑤	・目標を設定する。
⑥	・必要な項目を選定する段階。
⑦	・項目と項目を関連付ける。
⑧	・具体的な指導内容を選定する。

- ・「各教科等合わせた指導を行う場合」については、偏りなく教科を行っていくこと、時間のまとまりを見通して、3つの柱を当てはめていくこと。子どもたちが考える過程を重視し、これを実施するために「カリキュラム・マネジメント」をする。また、上手いいかないことを直していくことも「カリキュラム・マネジメント」である。
- ・「社会に開かれた教育課程」とは、とみよう祭などで、家庭以外の方たちにも宣伝する等、双方向になるよう学校でやっていることをいかに地域の方たちに知ってもらえるか。今まで以上に知ってもらえるようにという考え方である。

(4) 受講者アンケート結果

- ①本日の研修をとおり、日々の授業実践や研究を進めていく上で参考になりましたか。



- ②「講話を聞いて今後、自分自身に取り組まなければならないと考えたこと」について(まとめ)
- ・「主体的・対話的で深い学び」とは、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」がスパイラルになり、これらが単元の中で大切であると分かった。このスパイラルをイメージしながら、PDCAサイクルで授業改善ができるよう取り組んでいきたい。
 - ・新学習指導要領の講話を聞き、「新しい考え方」ではなく、「整理の仕方が新しくなった」という印象を受けた。そのため、今回の改訂を踏まえ、今まで積み重ねてきた実践を振り返り、整理し、授業改善をしていきたい。

10 本年度研究のまとめ

【成果】

(1) 富里特別支援学校としての「主体的・対話的で深い学び」の意味づけ

今年度、富里特別支援学校としての「主体的・対話的で深い学び」について意味づけをしていくに当たり、各研究部会で、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の意味づけをしていた。各学部の意味づけの方法や過程については、各研究部会の取り組みを見ていただきたい。

第3回の全校研究会の講師指導で「3つの学びは連動し、スパイラル状になっている。そのため、独立したものという考えではなく、絡み合っているという考えである。」という御指導をいただいた。各学びの関連しているところを大切にしつつ、各学部で意味づけたものを基に、本校の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」について意味づけをすることができた。

〈富里特別支援学校における主体的・対話的で深い学びの意味づけ〉

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
富里特別支援学校	◎興味・関心を持ち、自ら考えて行動したり、振り返ったりする学び。	◎人や物をとおしてやりとりを広げ、自分なりの方法で気持ちを伝える学び。	◎授業で学んだことを、生活にいかす学び。
小学部	○興味・関心や意欲をもって学習すること。 ○見通しも持って学習に取り組むこと。	○人や物などを介して学んだり、考えを広げたりすること。	○習得したことを生活に般化し、問題を解決したり思いや考えを表現したりすること。
中学部	○自分の目標や活動内容が分かり、自分から動いて、達成できたかどうかを振り返ること。 ○うまくいかない時には、どうしたらよいか考えて取り組むこと。	○友達や教師とやりとりする中で、自分の要求や報告・連絡・相談ができること。 ○友達や教師とやりとりする中で、相手と気持ちや動きを合わせること。	○友達や教師の活動を見たりアドバイスを受けてたりして、よりよい方法を考えて取り組むこと。 ○試行錯誤を重ね、自分でよりよい方法を考えて取り組むこと。
高等部	○自分で考え、行動する学び。	○見る・話す・経験するなどの様々な方法による学び	○（学校・家庭・社会・将来の）生活に生きる学び
AC学級	○様々な場面で自ら考え、行動すること。	○やりとりをとおし、自分なりの方法で相手に気持ちを伝えていくこと。	○生活環境が変わっても、授業等で身につけた力を発揮すること。

※3つの学びは関連し合っているため、点線で区切り、整理している。

(2) 新たな学習指導案の様式作成

次年度から各研究部会が授業実践に取り組めるように、意味づけした「主体的・対話的で深い学び」、「学力の3要素」、「授業の評価」を取り入れた新たな学習指導案の様式（資料P20参照）を作成することができた。授業実践をとおし、「授業の評価」を活用し、PDCAサイクルによる授業改善に取り組んでいく。そして、授業改善から「社会に開かれた教育課程」を編成できるようにしたい。

【課題】

今年度は新学習指導要領について全校職員への周知を図り、その中でもキーワードとなる「主体的・対話的で深い学び」について、各研究部会が創意工夫をし意味づけに取り組んできた。次年度からは本格的に授業研究に取り組むため、今年度導き出したものの妥当性に迫りたい。授業研究の際、新しい様式となった学習指導案を使用するため、課題点が見られたら、その都度さらなる改善をしていく。

全体講師の小倉京子先生より、「3つの学びを各学部の系統性にも着目しながら整理していくと良い」と指導を受けたので、研究係を中心に富里特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の学部段階表（試案）を作成した。次年度、授業実践を通し、整合性や妥当性の検討を図り、PDCAサイクルから、修正・改善をして、研究テーマに迫っていきたい。

次年度以降、今年度実施した2回の全校研究会で得た「社会に開かれた教育課程」の内容（下記表参照）や授業研究をとおり、研究テーマに迫るとともに本校が考える「社会に開かれた教育課程」を明確にする。具体的な授業改善（単元・題材計画含む）や教育課程の見直しを実施し、「社会に開かれた教育課程」を目指していきたい。

富里特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の学部段階表（研究係修正試案）

	主体的な学び	対話的な学び	深い学び
富里特別支援学校	◎興味・関心を持ち、自ら考えて行動したり、振り返ったりする学び。	◎人や物をとおしてやりとりをを広げ、自分なりの方法で気持ちを伝える学び。	◎授業で学んだことを、生活にいかす学び。
小学部	○興味・関心を持って意欲的に学習に取り組むこと。 ○見通しを持って学習に取り組むこと。	○人や物などを介して学習に取り組み、考えを広げたり、深めたすること。	○授業で身につけたことを学校生活に般化すること。 ○問題を解決したり思いや考えを表現したりすること。
中学部	○興味・関心を広げ、工夫しながら学習に取り組むこと。 ○見通しも持って学習に取り組む、振り返ること。	○人や物などを介して、やりとりをする中で、要求や報告・連絡・相談ができること。 ○友達や教師とやりとりする中で、相手の動きに合わせること。	○授業で身につけたことを日常生活に般化すること。 ○観察・洞察等を重ね、自分でよりよい方法を考えて取り組むこと。
高等部	○自ら考え、意欲や見通しを持って行動すること。	○友達や教師と見る・話す（報告・連絡・相談含む）・経験すること。	○授業で身につけたことを、学校・家庭・社会・将来の生活に般化すること。 ○自己でPDCAサイクルしていく力。
AC学級	○様々な場面で自ら考え、行動（表出含む）すること。	○人や物を介しながらやりとりをし、自分なりの方法で相手に気持ちを伝えていくこと。	○学習環境や生活環境が変わっても、授業等で身につけた力を発揮すること。

※3つの学びは関連し合っているため、点線で区切り、整理している。

講師指導による「社会に開かれた教育課程」の例

【第2回全校研究会より】

- ①社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくこと。
- ②これからの社会を創り出していく子どもたちが、社会や世界に向き合い関わり合い、自分の人生を切り拓いていくために求められる資質・能力とは何かを、教育課程において明確化し育んでいくこと。
- ③教育課程の実施に当たって、地域の人的・物的資源を活用したり、放課後や土曜日等を活用した社会教育との連携を図ったりし、学校教育を学校内に閉じずに、その目指すところを社会と共有・連携しながら実現させること。

【第3回全校研究会より】

実習や就職した際に、会社は状況が整っていないため、「できなかった」と評価されたとする。進路担当や担任が「この手立てをすればできる」と話をする。会社はそれを受けて、生徒の仕事をつくることができれば良いがそのノウハウがない場合、「学校は、この仕事のとき、この手立てをとっている」と学校から手立てを持って行く。その結果、会社でできる。これは、学校でやっていることと社会がつながる一例である。このようなことも「社会に開かれた教育課程」である。

資料 新しい学習指導案の様式

書式設定 用紙サイズ:A4縦 1行の文字数:45字 1ページの行数:38行
 印刷形式設定 文字サイズ:10.5ポイント 左右余白:20mm 上余白:20mm 下余白:30mm
 字体:明朝またはP明朝(タイトル等にゴシックや太字を使用しても構わない)
 均等割付、密着割付、網掛け、文字飾り、斜体などの機能は使わない

※これを基本とするが必要に応じて変更して良い。

○学部作業学習(○○班)学習指導案

日 時 平成○年○月○日(○)
 ○時○分～○時○分
 授業場所 ○○部○年○組教室
 指導者 ○○○○(T1)○○○○(T2)
 ○○○○(介)

1 題材名(単元名)「 」

2 学習集団について

- ・本題材に関する児童生徒の実態や既習経験等を記入する。

3 題材(単元)について

- ・本題材の特色や意義・重要性・系統性を記入する。
- ・系統性はこれまで学習してきた題材(単元)間のつながりを記入する。

既習題材(単元)→本題材(単元)→次題材(単元)

- ・「主体的・対話的で深い学び」に触れるように記入する。
- ・本題材(単元)をとおしてどのような力を身につけることができるのか、また将来どのような姿を願っているのか等(キャリア教育の視点)も踏まえながら記入すると良い。

4 題材(単元)の目標

- ・児童生徒の立場で表記し、評価可能な目標を設定する。
- ・「育成を目指す資質・能力」で目標を整理する。

知識・技能
 思考力・判断力・表現力
 学びに向かう力・人間性

5 指導計画

月日(曜日)	学習内容
○月○日()	・「○○」作り ↓ 学習内容が長期に渡り一定であれば、このような表記で記入してもよい。
○月○日()	
○月○日()	
○月○日() 本時	

題材（単元）に様々な内容が含まれていたり、学習の過程を明確にしたい際は、このような表記で記入してもよい。

時数	月日（曜日）	学習内容	学習の目標（めあて）
1	○月○日（ ）		題材（単元）の目標が達成できるようにスモールステップの視点で目標（めあて）を記入する。
2	○月○日（ ） （本時）		
3	○月○日（ ）		

6 本時の指導

（1）本時の目標

- ・題材（単元）の目標や指導計画から本時の目標を設定する。
- ・「育成を目指す資質・能力」で目標を整理する。

（2）展開

時配	児童（生徒）の活動	支援上の留意点	教材等
1	○ 始めの会をする。 ・あいさつをする。 事例児童（生徒）の活動が分かるように工夫して記入する。	・複数の教師で実施している授業であれば、各教師の役割を明記する。	写真カード

（3）児童生徒の目標・手立て・評価（◎できた ○支援を変えたらできた △改善が必要）

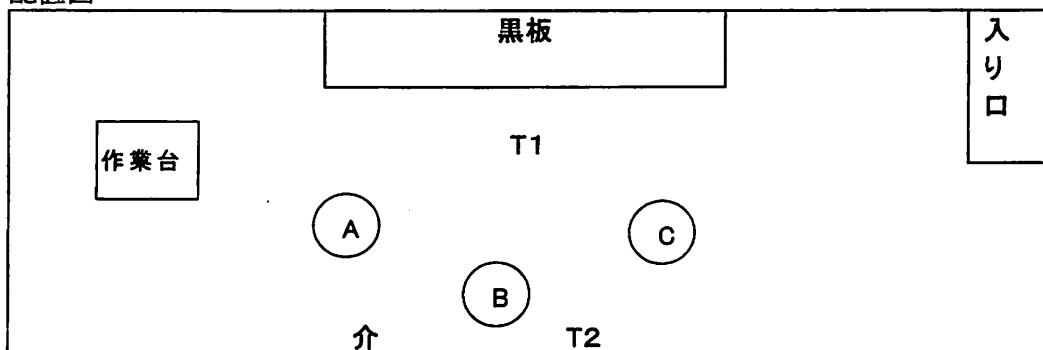
児童	児童（生徒）の様子	本時の目標	本時の手立て	評価
Aさん ○年男 (事例)	・題材（単元）での様子やそれに関連する学校生活の様子、障害特性等を記入する。	・本時の目標や本時までの様子を踏まえ、児童（生徒）の目標を設定する。	・主体的・対話的で深い学びの視点で記入する。	
Bさん ○年女				

授業協議会の際に、評価をしていく。○や△の評価の場合、その理由や方法、改善点を説明する。

※事例児童（生徒）を取り上げて授業研究を実施する場合、必要に応じて個別の資料を作成してよい。

◎校内の授業研究会であれば、児童生徒の氏名を記載しても構わない。「時計台」に記載する際は記号で記入する。

(4) 配置図



◎児童生徒、教師、教室、教材教具等の人的、物的な場の設定をわかりやすく図で示す。

(5) 板書計画

◎板書があれば記入する。

7 資料

- ①教材等は写真や名称だけでなく、使用方法等も記入されていると分かりやすい。
必要に応じて記載する。
- ②自立活動で授業実践をする際は「自立活動要素表」を記載すると良い。

批評箋として活用してもよい。

8 授業の評価 (○できた △改善が必要)

(1) 授業について

本時の目標	評価	改善点
6 本時の指導 (1) 本時の目標を記載し、学力の3要素で整理する。	協議会の際に授業者は2段階の評価にふれること。△の評価を付けた際は、改善方法を説明する。	協議会の際に、授業者からの評価の根拠となる発言を記入する。
〈育成を目指す資質・能力〉 知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性 ➡ 〈学力の3要素〉 知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度		

◎授業を参観する際は「評価」を記入し、考えられる改善点があったら記入する。

(2) その他

授業者・・・「(1) 授業について」にふれることができなかったもの(教材や環境面等)で改善が必要なことを協議会で説明する。
参観者・・・授業を参観し、気づいた点、疑問点、改善点などを記入する。できる限り協議会の際に発表する。

小学部研究部会

- 1 今年度の計画
- 2 研究方法
- 3 研究結果
- 4 本年度の研究まとめ

小学部の研究

1 今年度の計画

新学習指導要領の基本的な考え方を理解するために、全校研究テーマを「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践」～社会に開かれた教育課程をめざして～とした。これを受けて小学部では、以下二つのことについて研究を行った。

- ①全校研究会を経て、新学習指導要領のポイントとなる「主体的・対話的で深い学び」の意味づけを行う。
- ②「生活単元学習」を研究対象とし、より小学部の児童の実態に合った年間指導計画の見直しと作成を行う。

①の意味づけは、児童の「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とはどのような学びの場面なのか、三つの視点に分けて振り返りを行う。そして、様々な学びの場面や活動を整理し、授業作りの基本となる考えとしてまとめることとした。

②の年間指導計画の作成は、今年度行った学習の中からいくつかの活動を取り上げ、具体的な子どもの学ぶ姿を捉え直すことで、小学部として目指す「主体的・対話的で深い学び」を共通理解することとした。

2 研究方法

- ①各学びの意味づけはKJ法を用いて行う。

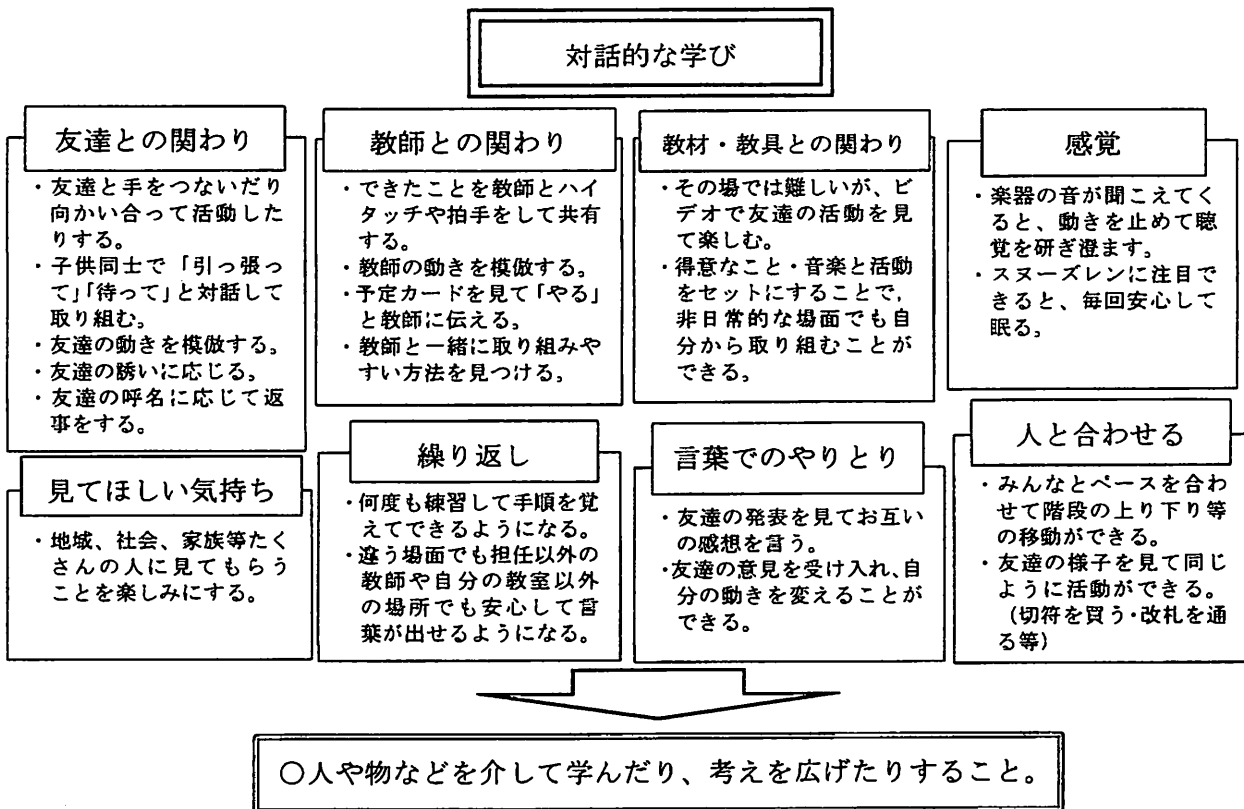
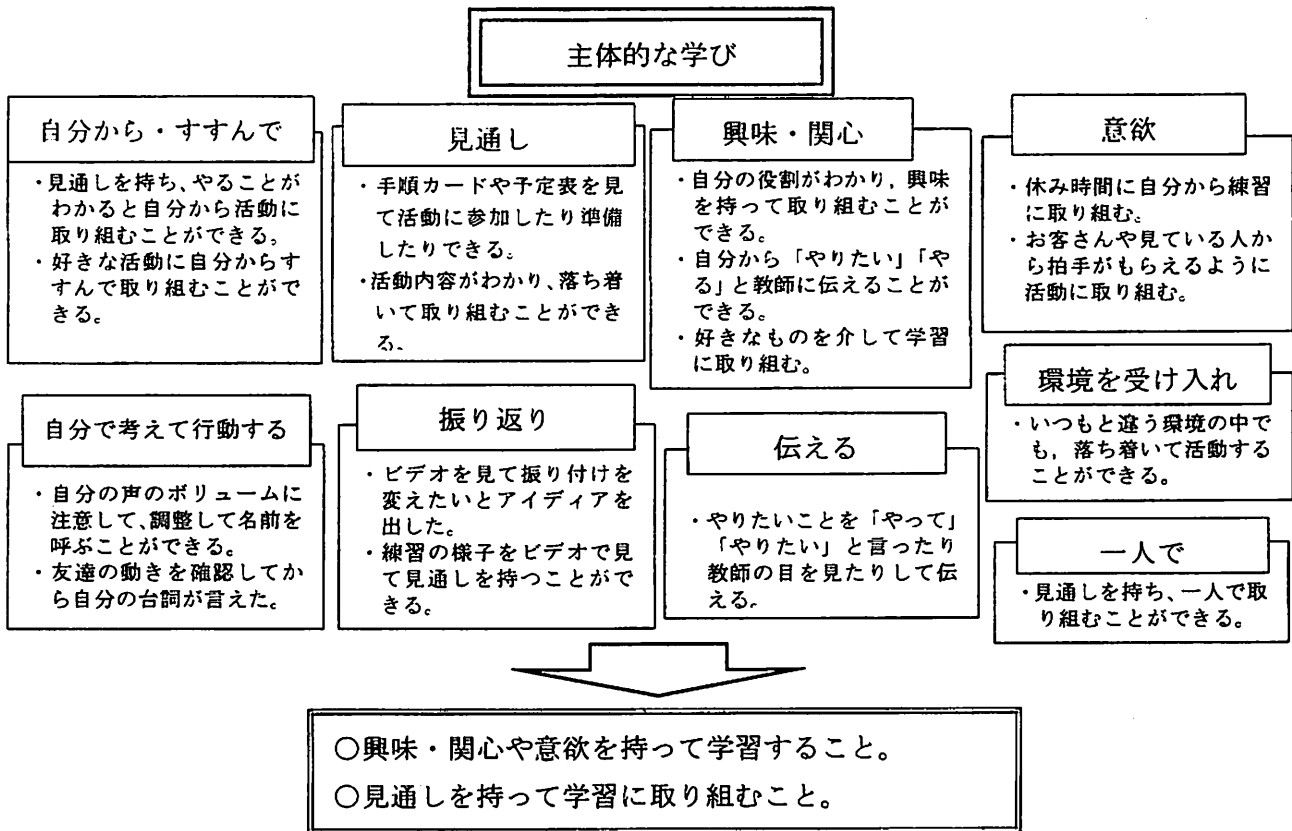
- (1)生活単元学習や音楽などの学習場面や児童の学ぶ姿を、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点に分類する。
- (2)分類した情報を整理し、三つの学びの意味を小学部の目指す姿として共通理解する。

- ②次年度の「生活単元学習」の年間指導計画の作成を行う。

- (1)生活単元学習の年間指導計画を見直し、改善点を明らかにする。
- (2)児童の実態を踏まえて、次年度の年間指導計画の作成を行う。

3 研究結果

①三つの学びの意味づけ



深い学び

意欲

- ・とみよう祭で発表してから、より興味を持ち、英語の授業（ALT）に取り組めるようになった。
- ・上手にできたことで、もっとやりたいという気持ちにつながった。

習得

- ・楽器が変わっても同じリズムで打つことができた。
- ・毎回同じ曲を聴き、慣れたことで、音楽が鳴ると踊り出すことができる。
- ・「できないこと」を繰り返し取り組み「できる」ようになった。

学んだことをいかす

- ・学習したことを、他の場面でも生かす。
- ・他の利用者があることがわかり、電車の中や駅のホームで静かに待つことができた。
- ・課題学習でのお金の計算を通し、お店で支払いができた。
- ・得意なこと、普段取り組んでいたことを発表することができる。

自信

- ・自信がついて他の楽器に興味を持ったり、音楽の授業に意欲を持つた。

自分なりの工夫

- ・台本の台詞だけでなく、お客さんの反応を見て自分から発言できた。

自己決定

- ・たくさんある中から自分で選び活動に参加するパターンを覚えた。
- ・周りの状況を見て自分から友達の応援ができる。

振り返り

- ・練習後、頑張ったことを発表し振り返りをした。
- ・事後学習で振り返りを行い、自信や意欲につながった。

自己評価

- ・自分のやった活動を称賛し、満足し自己評価することができた。

期待

- ・ミラーボールを見ると、光を期待して近寄る。
- ・新しいことに挑戦する。

○習得したことを生活に般化し、問題を解決したり思いや考えを表現したりすること。

②年間指導計画の改善点について

平成29年度 小学部5・6年 生活単元学習 年間指導計画

月	単元・題材	単元・題材の目標	学習・活動内容
4	○野菜をつくろう	・ 苗の植え方や畑の耕し方を知り、実際に苗を畑に植えることができる。	・ 畑を耕し、肥料を混ぜる。 ・ 土に穴を掘って苗を植える。
5	○がんばるぞ！運動会！！ ○千葉市動物公園へ行こう	・ 運動会の準備に意欲的に取り組む。	・ 運動会の用具や応援グッズを作る。
課題点① 校外学習の精選、時期、行事の予定等を総合的に考えると千葉市動物公園の校外学習は無くした方がよい。			
6	○とみよう祭の作品をつくろう	課題点② とみよう祭の前に宿泊学習があり、学習のつながりが持ちにくい。	
7	○野菜を収穫して、調理をしよう	・ 育てた野菜を収穫することができる。 ・ 収穫した野菜を使い、友達と協力して、調理することができる。	・ 野菜を収穫する。 ・ 調理の手順を知り、分担・協力して作り、会食をする。
9	○事前校外学習・宿泊学習に行こう	課題点③ 事前校外学習と宿泊学習があり、日程や準備活動の時間が十分に確保できない。また、児童の体力面も心配である。	
10	○とみよう祭をしよう	・ 友達と協力してゲームや会場作りに取り組むことができる。 ・ 自分の役割が分かって、自分から活動に取り組むことができる。	・ ゲームや会場作り（舞台・セット）をする。 ・ お客さんを迎えて、係の活動ができるよう練習する。
11	○とみよう祭をしよう ○サツマイモ掘りをしよう	・ 自分の役割が分かって、自分から活動に取り組むことができる。 ・ 合奏やダンスのより良い発表に向けて、練習に取り組むことができる。 ・ サツマイモの収穫をすることができる。	・ お客さんを迎えて、係の活動ができるよう練習する。 ・ 合奏やダンスの練習をする。 ・ 畑からサツマイモを掘りだす。
12	○サツマイモを使って調理をしよう ○お楽しみ会をしよう	・ 収穫したサツマイモを友達と協力して調理することができる。 ・ 調理に必要な材料をお店で買い物することができる。 ・ お楽しみ会に向けての装飾やゲームなどの準備活動を通して、お楽しみ会に向けての期待を高め、友達や教師と意欲的に取り組むことができる。	・ サツマイモを使った料理を協力して作り、みんなで食べる。 ・ 公共のルールや買い物の仕方を確認し、実際にお店で買い物をする。 ・ 会場の装飾を作って飾り付けをする。 ・ お楽しみ会で行うゲームやダンスの練習をし、いろいろな友達と一緒に取り組めるようにする。
1	○書き初めをしよう	課題点④ 卒業式や送る会に向けた装飾に取り組んでいたが、内容や制作する量を調整して、書き初め以外の活動にも取り組んでいきたい。	
2	○ポップコーンの種を使って調理をしよう。 ○6年生を送る会をしよう	課題点⑤ 6年生を送る会では、5年生が会の進行や6年生の教室装飾づくりを行うため、6年生と一緒に活動する時間が少ない。	
3	○卒業式練習 ○進級作品を作ろう	・ 卒業式での様々な所作を身につけ、できるだけ少ない支援で式に臨むことができる。 ・ 1年間の学習の集大成となる作品を作ることができる。	・ 式中の話を聞く態度、歌の練習をする。 ・ これまでの学習経験を生かした作品作りをする。

平成30年度 小学部 5・6年生 生活単元学習 年間指導計画

	単元・題材	単元・題材の目標	学習・活動の内容
4	○畑をつくろう	・育てたい野菜を決めて、実際に種や苗を畑に植えることができる。	・育てる野菜を決める。 ・畑を耕し、種や苗を植える。
5	○運動会をしよう ○野菜を植えよう	改善点① 5月の校外学習がなくなり、農作物作りの学習内容の充実を図ることができる。	
6	○とみよう祭作品作り ・プラネタリウムを作ろう ・水族館を作ろう ○交流会をしよう	・プラネタリウムや水族館について知り、興味関心を持つことができる。 ・友達と協力して作り、みんなで遊ぶことができる。 ・富里小の友達とゲーム等の活動を、楽しむことができる。	・プラネタリウムや水族館について知る。 ・友達と一緒にプラネタリウムや水族館で遊ぶ。 ・自己紹介、ゲーム、ダンス等で交流を楽しむ。
7	○野菜を収穫して、調理をしよう	改善点② とみよう祭作品作りを、修学旅行や宿泊学習につながる題材にする。	
9	○修学旅行に行こう (修学旅行・6年)	・修学旅行の日程や活動に見通しを持ち、楽しんで参	・日程表、しおり作りをする。
10	○校外宿泊学習に行こう (校外宿泊学習・5年)	改善点③ 事前の校外学習がなくなり、体力面に配慮した日程や計画が立てやすくなる。また、宿泊学習に向けた準備を十分に行えるようにする。	
11	○とみよう祭をしよう ○野菜の収穫をしよう ○交流会をしよう	・これまでの学習の成果をステージ上で発表することができる。 ・自分の役割が分かって、自分から活動に取り組むことができる。 ・育てた野菜を収穫することができる。 ・富里小の児童が計画したゲーム等に取り組むことができる。	・日程表やしおり作りをする。 ・学習発表の練習や準備をする。 ・発表をしたり、他の人の発表を見たりして楽しむ。 ・野菜を収穫する。 ・ゲーム、ダンス等で交流を深める。
12	○お楽しみ会をしよう ○収穫した野菜を使って調理をしよう	・お楽しみ会に向けての装飾やゲームなどの準備活動を通して、お楽しみ会に向けての期待を高め、友達や教師と意欲的に取り組むことができる。 ・収穫した野菜を使い、友達と協力して調理することができる。	・会場の装飾を作って飾り付けをする。 ・お楽しみ会で行うゲームやダンスの練習をし、いろいろな友達と一緒に取り組めるようにする。 ・調理の手順を知り、分担・協力して作り、会食をする。
1	○書き初めをしよう ○季節の遊びをしよう (5年) ○卒業記念作品を作ろう (6年)	改善点④ 書き初め以外に季節の遊びを行い、活動の内容を広げて取り組む。	
2	○ブロックでお別れ会をしよう ○6年生を送る会をしよう (5年) ○ステージ発表をしよう (6年)	・これまでの学習経験を生かした作品作りをする。	・これまでの学習経験を生かした作品作りをする。
3	○卒業式練習 (6年) ○進級制作を作ろう (5年)	・卒業式での様々な所作を身につけ、できるだけ少ない支援で式に臨むことができる。 ・1年間の学習の集大成となる作品を作ることができる。	・入退場、卒業証書授与等の所作を練習する。 ・式中の話を聞く態度、歌の練習をする。 ・これまでの学習経験を生かした作品作りをする。

4 本年度の研究まとめ

(1) 成果と課題

【成果】

学びの意味づけを行った際、3つの学びそれぞれに「意欲」や「振り返り」等似たようなタイトルがあったり、学習指導や児童の姿にも似たようなものがあったりしたことから、3つに分けて考えるのではなく、つながりのある言葉であることが分かった。また、「スケジュール表を見て次の活動に取り組む」という児童の活動は、主体的な学びとも対話的な学びとも捉えられることができ、さらにそれらの学びから深い学びと捉えることもできると考えられる。このことから「主体的・対話的で深い学び」をひとまとまりの視点として捉えることが分かり、小学部としての3つの学びの姿を共通理解することができた。

続いて、生活単元学習の年間指導計画の改善を行ったことで以下の改善点が明らかになった。一つは学習内容が児童の興味・関心や既習経験を必ずしも活かした内容ではなかった点である。そこで、子どもたちの主体的な活動を高めていく時間を設けることができるように配慮した。もう一つは小学部として目指す3つの学びに取り組む時間が十分ではなかった点である。そこで、一つの単元に十分な時間を設け、学習の繰り返しや継続、積み重ねができるように配慮した。

【課題】

次年度は「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業実践を行う。また、今年度作成した年間指導計画をもとに授業の計画・実践・振り返り・改善をしていく。

(2) 次年度の研究について

①研究テーマ（仮）

「生活単元学習における主体的・対話的で深い学びを目指した授業実践」

②研究テーマ設定の理由

次年度は「生活単元学習」の授業において、「主体的・対話的で深い学び」の視点から単元（題材）の設定や支援方法を考え授業実践に取り組み、授業の振り返りを通して学習内容の整理と改善を目指していきたい。また、研究授業における指導案の作成や検討では、育成を目指す資質・能力と、3要素（知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、主体的に学習に取り組む態度）の視点から目標を設定し、評価や改善を行いたい。さらに、今年度作成した年間指導計画をもとに授業の計画・実践・振り返り・改善をして妥当性を図っていきたい。

5 日課表

(低学年ブロック)

	月	火	水	木	金
9:00	日常生活の指導 (着替え・排泄・朝の会・係活動) 課題学習(朝の学習)				
10:15	体育(朝の運動)				
11:00	課題学習 (グループ学習)		音楽	生活単元学習	
11:45	日常生活の指導(給食・歯磨き)				
13:20	学級活動	課題学習 (国語・算数・自立活動を 合わせた指導)			
13:45	日常生活の指導				
14:30	(帰りの支度・帰りの会)				

(中学年ブロック)

月	火	水	木	金
日常生活の指導 (着替え・排泄・朝の会・係活動) 課題学習(朝の学習)				
体育(朝の運動)				
体育	音楽	生活単元学習		
日常生活の指導(給食・歯磨き)				
課題学習 (グループ学習)	学級活動	課題学習	課題学習 (グループ学習)	課題学習
日常生活の指導 (帰りの支度・帰りの会)				

(高学年ブロック)

	月	火	水	木	金
9:00	日常生活の指導 (着替え・排泄・朝の会・係活動) 課題学習(朝の学習)				
10:15	体育(朝の運動)				
11:00	生活単元学習			音楽	体育
11:45	日常生活の指導(給食・歯磨き)				
13:20	課題学習	課題学習 (グループ学習)		課題学習	学級活動
13:45	日常生活の指導				
14:30	(帰りの支度・帰りの会)				

(日課表の語句説明)

生活単元学習	時期ごとにテーマを設定して児童に身近な学校生活や校外学習、学園祭等を取り上げ、児童の興味関心や見通しを大切にして取り組む学習。
課題学習	国語と算数と自立活動等を合わせた学習。個々の児童の課題に応じた個別の学習。
グループ学習	小集団での簡単なルールのある遊びやゲーム、集団歩行等を通しての社会性やコミュニケーションに関する学習。
体育	歩く、走る、投げるなどの基本的な動きを中心にした運動や、陸上運動、ボール運動、器械運動、水泳等の学習。

中学部研究部会

- 1 今年度の計画
- 2 研究方法
- 3 研究結果
- 4 本年度の研究まとめ

資料 中学部普通学級の日課表

中学部の研究

本校中学部では、前年度、作業学習で大切にすべき視点について研究を行ってきた。研究の成果として、中学部作業学習では、①物を作る活動を通して、自分のやることがわかり継続して行う姿、②物を作る活動を通して、人と関わりをもったり受け入れたりする姿、③物を作る活動を通して、達成感や成就感をもち主体的に意欲をもって取り組む姿の3視点が明確に示された。今回の新学習指導要領では、「何を学ぶか」の視点に加え「どのように学ぶか」の視点が加えられている。さらに、「どのように学ぶか」については、具体的に主体的・対話的で深い学びの必要性について述べられている。そこで、今年度の研究は、昨年度の研究で明らかにした生徒が何を学ぶかの視点を土台に「どのように学ぶか」＝「主体的・対話的で深い学び」について研究をしていくことにした。また、今年度の研究は作業学習の視点を切り口に部内研究協議会（グループディスカッション）を実施し、中学部にとっての主体的・対話的で深い学びについて意味づけを行った。

1 今年度の計画

9/6	全校研究会	講師講話 新学習指導要領のポイントについて研修を受ける。
9/27	学部研究会	今年度の中学部の研究について
10/11	学部研究会	テーマに沿って、作業班ごとの話し合い
10/25	学部研究会	作業班ごとに、前回の発表、質疑応答
11/2	全校研究会	講師講話 学部研究について外部講師からの助言を受ける。
11/8	学部研究会	作業班ごとに中学部が捉える「主体的・対話的で深い学び」について
11/15	学部研究会	作業班ごとに研究係が提案したマンダラチャートシートを使って話し合い
11/29	学部研究会	作業班ごとにマンダラチャートシートに挙げられた視点について、意味づけを考える
12/8	学部研究会	マンダラチャートシートに挙げられた視点から、中学部における「主体的・対話的で深い学び」の意味づけを考える。
1/17	学部研究会	全校のキーワードの意味づけを検討
1/24	学部研究会	次年度指導案様式検討
1/31	学部研究会	学部時計台原稿検討①
2/7	学部研究会	学部時計台原稿検討②
3/7	全校研究会	各研究部会のまとめと次年度研究方針の報告

2 研究方法

(1) 研究テーマ

「中学部の主体的・対話的で深い学びの意味づけ」

(2) 研究のねらい

- ① 中学部における主体的・対話的で深い学びの意味づけを行う。
- ② 講師の助言を基に部内研究協議（グループディスカッション）を重ね深める。
- ③ 一年間で取り組んだ内容や改善した点などを実践報告集へまとめる。

(3) 研究の進め方

作業班ごとにわかれ、毎回、テーマに沿ってのディスカッション形式で研究を深めていった。

- ① 「主体的な学びとは」「対話的な学びとは」「深い学びとは」について、作業班ごとに生徒の作業で見られる姿を中心に挙げた。
- ② 各班から挙げられた点を基に、研究係で3つの学びをそれぞれ9項目（項目ごとにさらに8視点）に絞ったマンダラチャートを作成した。
- ③ 作業班ごとにマンダラチャートに入れ込んでみた。作成したマンダラチャートを基に、さらに3つの学びについて8視点に分けてまとめた。

最後に、3つの学びについて挙げられた視点を研究係で共通する点や大切な点をまとめて提案し、全体で話し合い、「中学部としての主体的な学び・対話的な学び・深い学びとは」を意味づけた。

3 研究結果

研究の進め方については、中学部1頁で示した。その流れに従って、今年度の研究は、研究係での話し合い、各作業班での協議、学部での協議をした際の資料を以下の通り、時系列順に抜粋し掲載する。

・10月11日 作業班ごとに3つの学びについて協議 [2(3)研究の進め方①]

ここでは、各作業班に分かれ、各班で行われている、見られる、狙っている「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」について挙げた。それをまとめたものが以下の表である。

主体的な学び	園芸班	初めて作業する友だちにやりかたを教えてあげることができた。
		机といすを準備すると自分から席に着くことができた。
		自分からスコップをとり、土運びに取り組むことができた。（本来は教師が持ってくる予定だった）
		「今日は何をするの？」教師に自分から確認することができた。
		土づくりの工程に見通しを持ち、自分で準備から片付けまでを行うことができた。
		「先生、一緒にやろう」と声をかけることができた。
	木工班	自分で身支度、準備を始めることができた。
		終わりも進んで片付けができた。
		環境が整っているので自分で動けた。
		組み立てでは、同じ製品の場合は、自分から動く姿が見られる。
		仕事の中で、加減を自分でとれるようになった。（例えば、休憩など）
		各自、目標をたて、達成させるために頑張ろうとする姿が見られる。
	紙工班	周りの状況を見て、自分なりにやりやすい方法を考える。
		自分の活動が分かり一定のリズムで作業にとりくんでいる。
		いくつかの工程を体験した後に「これがいい」と自分で選んで参加できた。
		活動の一覧表や出来高表などを作って、工程の流れがわかったり、目標がわかりやすかったりすることで、積極的な姿勢をねらいたい。
		道具を視覚的に整える（例：コンテナの色を使用は青、未使用は赤など統一することで、各班に分かれた時でも、自分から分別できるようになることにつながる）ことを狙いたい。
	カレンダー	来た人から順にカゴをとり、座って作業を始めている。
		クイリンググループでは、手順表をみて一人で進められる。
		目標数をもって取り組んでいる。
		時間いっぱい取り組んでいる。
対話的な学び	園芸班	生徒同士でやり方を教え合いながら作業に取り組めた。
		学年の畑の活動でスコップを使っていた。そのためか園芸でも使うと判断し、自分からスコップを用意した。
		1人がビニール袋を設置し、もう一人ができた土の分量をはかって袋詰めする。
		ふるい機を生徒と教師と一緒に取り組む。
		「先生、一緒にやろう！！」と声をかけた。

深い学び	木工班	材料や塗料がなくなると、そのことを伝え、もらうことができる。
		「お願いします」「ありがとう」のやりとりがある。
		注文票を使用して要望を伝えるやり取りができています。
		他の工程の人とのやりとりの仕方を覚えて、自然にできるようになってきている。
		反省会で自分の成果を発表できている。それに対する反応（拍手や驚嘆）がある。
	紙工班	ミキサー時に使うタイマーや回数確認表がそろっていないことに気づき、「道具がない」と教師に伝えられた。
		何気ない場面で「それを取って」「これ使っていいよ」などの場面が見られる。
		気が付いたことをみんなに伝える。 (EX. ちぎった紙の中に大きいものが混じっているのに気づいて、教師に促されてみんなの前で「大きい」「小さくして」と言えた。)
		子ども同士の共同作業で、工程の流れを作って「受け渡し」などが狙える。
	カレンダー班	終わりの会で発表する。
		分からない時、困ったとき、材料がなくなったときに教師に相談（報・連・相）する。
		次の工程の友達に渡しに行く。
	園芸班	鉢カバーグループでは、竹の切断面がきれいになるように、教師に確認しながら、また自分で切り方を工夫しながら取り組んだ。
		鉢に竹の棒をボンドでつけて作る鉢カバーでは、ボンドをつける位置に、はじめは3か所印をつけていたが、慣れてくると印がなくても自分から3か所ボンドをつけることができるようになった。
		残土捨ての時に、自分から台車を用意してバケツを一度にたくさん運ぶことができた。
		黒ポットの片付けでは、黒ポットを重ねて整理したり、底網を一か所にまとめて片づけたことができた。
	木工班	木の目にそろえて塗ることができ、仕上がりがきれいになった。
		他の木でもできる。
		塗料の量を調整し、無駄なくきれいに仕上げることができた。
		木の一部ではなく、全体を見て裁断できる。
		良し悪しを確認し、調整を加えることができる。
		自分で判断ができるようになり、それを見て真似る生徒も出ている。
	紙工班	出来高表を使用し数を数えたり、「もっと〇〇したほうが、効率よく出来高を増やせる」といった発想が狙えたりする。
	カレンダー	自分で微調整できるようになった。（より丁寧になった）
		工程に慣れていくことで安定して取り組めるようになった。
		子どもの実態に合わせて環境・席の配置をしたことで効率よくできるようになった。
		自分でやりやすいように作業工程を工夫した。

以上の各班から挙げられた3つの学びについての様子を基本に、その内容から下のようなマンダラチャートを作成した。各作業班でのチャート表作成に向けて、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を構成すると考えられるそれぞれの8つの視点を予め研究係で話し合い独自に設定した。その後、8つの視点について、各班で協議し表作成を行った。本紀要には園芸班のマンダラチャートを作成例として抜粋し掲載する。

「今日は何時か」と聞いた。	「エブリの工程に見通しを持つ」	最初に三選目、回数も大いにおくと、「次回日・ハローで取り廻す。」	竹を切る作業はすぐ分かる。する。	今日竹を切った個数を確認した。	やすりがけの時に入来ておれ（修正をかける）	自分からスナップを取り、土運搬に取り組んだ。	準備から片付けまでを行うことバリエーション。	作業後の清掃を行う。
土作りやボルト締めなどを行いながら、回数を数えている。	見通しをもつこと	目標を決めて竹を切った。	切り口の様子や木質を観察する。	振り返ること		バケツと網を一袋に入れてのおろしてと決めておく。	環境を整えること	切りやすいように土台を用意する。
花苗を二階の庭に植える。	始めの段階で、今日の状況を確認する。時間経過と共に状況を説明する。							
エブリの工程に見通しを持つ。	なにより竹を育てる。	苗から花を育てる。	見通しをもつこと	振り返ること	環境を整えること	自分からスナップを取り、土運びに取り組むことバリエーション。	「今日は何時か」と聞いた。	「先生と一緒にやるよ」と声を掛けてくれる。
言葉を伝え、理解が得られなかったことを伝える。	体験すること	体験すること	主体的な学び	意欲をもつこと	意欲をもつこと			目標を決めて竹を切った。
黒板に名前を書き、その場で発表させる。	黒板の名前を、先生の指示に従って書く。	一人ひとりの名前を書いてもらう。	判断すること	考えること	人との関わり方	花苗を二階の庭に植えるのを手伝う。	上手に竹を切ることに挑戦させた。	苗植えのやり方を友達に教えてあげることに挑戦させた。
机の上にあるものを整理するとき、自分の席に座ると決めた。	自分からスナップを取り、土運搬に取り組んだ。	「今日は何時か」と聞いた。			エブリの工程に見通しを持つ。		「先生と一緒にやるよ」と声を掛けてくれる。	準備から片付けまで行う時に竹と一緒に参加させた。
竹を切る作業で、少しずつチェックする。	判断すること	やすりがけの時に、ずらぐらの面を探している。	竹を切る作業は、すぐにわかる。	考えること	やすりがけの時に、ずらぐらの面を探している。		人との関わり方	
やすりがけの時に、入来しておいた。	バケツにいっぱいの土をつめて、持ってくる。		やすりがけの時に、竹を上下、左右、とどの向きで削るか。	同じく削り方で使う。				

生徒同士でやり方を教えながら作業に取り組む。	2人で品かき土の分量を量った。	ふるい機を2人で動かす。	生徒同士でやり方を教えながら作業に取り組む。	1人が袋を持ち1人が土を入れる(土まわりの時)	ふるい機を2人で動かす。	土をこぼした経験を生かして、怖かたをこぼさないようにする。	反省会で周りの意見を聞く。	
「一緒にやろう」と声をかけた。	人との関わりをもつこと	販売会時にお客さんに宣伝をした。	「一緒にやろう」と声をかけた。	協力すること			振り返ること	
反省会で周りの意見を聞く。								
生徒同士でやり方を教えながら作業に取り組む。	土を入れる時に声を掛け合う。	「一緒にやろう」と声をかけた。	人との関わり	協力すること	振り返ること	袋から土がこぼれないように協力する。	ゲームコーナーのところに並ぶお客に気づき、おぼれを減らす。	ゲームコーナーではお客の動きや声を聞いて、ゲームの進行を調整する。
販売会時にお客さんに宣伝をした。	伝えること		伝えること	対話的な学び	気づくこと		気づくこと	
反省会で周りの意見を聞く。	おわりを伝えることかきする。		話し合うこと	受け入れること	体験すること			
反省会で周りの意見を聞く。	販売会の準備でポップの貼る場所を話し合う。		土まわりの作業で土を入れにくさを伝えて、ビニール袋の活用について話し合う。				1人が袋を持ち、1人が土を入れる。	袋から土がこぼれないように協力する。
ゲームコーナーで体験の楽しさを伝えることかきする。	話し合うこと			受け入れること		ふるい機を2人で動かす。	体験すること	ゲームコーナーではお客の動きや声を聞いて、ゲームの進行を調整する。

マンダラチャート作成例 中学部 園芸班「深い学び」

「ラグ苗の取り残しがいいか」を調べる。		学年の活動でスコップを使ったので、作業時に自ら用いた。	ホ斗の量の調節ができてきたように行った。	この量を調節して選ぶ。	「二重からくま」の一言で、自らスコップを用意した。	「ラグ苗を入れた土をすて選ぶ」ことが大変なので台車を用意した。	竹の断面がきれいに取れる。やり口のかけも楽になる。
調べる こと		片断後で各グループに台車を貸し出して発表する。	振り返る こと		ホ斗の量を調節して竹をとる。	理解 すること	
先生上にたれていいですね」と聞く。	矢張りヤレキの断面こそは僕らのマニールです		調べる こと	振り返る こと	理解 すること	学年の活動でスコップを使ったので、作業時に自分から用意した。	「ラグ苗をきれいに取る。」
伝える こと			伝える こと	深い 学び	体験 すること		土の量と調節して選ぶ
			受け入れる こと	気づく こと	考える こと	のこりの引け方を丁寧に説明して断面をきれいにする。	
土の袋の中の作業で、土を入れる位置と受け入れの口を開いておく。		竹の切断面がきれいに保てるように確認しながら声を交えた。		「大運が何より」の一言で、自らスコップを用意した。		竹の切断面がきれいに保てる。	「ラグ苗をきれいに取る。」
受け入れる こと		ホ斗の量の調節ができてきたように行った。	気づく こと	「ラグ苗をきれいに取る。」	黒板外を重たい整理したリ、床を一歩所まで掃除機（掃除機）で掃除した。	考える こと	販売会のゲームコーナーでお客さんがおぼろげな感じで預かってもらえるように考えた。
		残り土捨ての時バケツを沢山選べる方に自身で用意した。	残り土をいかに早くおぼろげな感じで預かってもらえるように考えた。	販売会のゲームコーナーでお客さんがおぼろげな感じで預かってもらえるように考えた。	土の量を調節して選ぶ。	竹を大量に切った分まとめて切る。	一人が袋を持ち一人が土を入れることで効率よく進める。（お母さん）

各班とも掲載例のチャート表と同様に3つの学びの8つの視点について表を作成した。そして、次の工程は、このマンダラチャート表を基に各班で「3つの学びを構成する8つの視点」のまとめ及び意味づけを行った。その各班の意味づけのまとめが次ページ以降の表である。

・ 11月29日 3つの学びの8つの視点の意味付けのまとめ [2(3) 研究の進め方③]

・ 各班の主体的な学びの8つの視点の意味づけ

項 目	カレンダー班	園芸班	木工班	紙工班
見通しをもつこと	・自分の作業内容が分かること。	・自分の目標が分かること。	・自分のやることが分かって、自分から動くことができること。	・準備や場を一定にすることで、流れに乗って活動するようにすること。
振り返ること	・作業全体の進捗状況や見通しをもつことができること。	・何が○で、何が×か分かること。(判断基準が明確であること) ・今日、自分がやった仕事分かること。	・自分の活動を振り返ること。	・次に向けての自分の考えを、それまでの経験を踏まえて、考えること。(狙いたい)
環境を整えること	・落ち着いて時間いっぱい作業に取り組むこと。	・自分のやりやすいように工夫すること。(気づくこと)	・自分のやることが分かって、自分から動くことができること。	・道具を自分で使いやすいうように動かしたり、交換したりすること。
体験すること	・体験を通して、たくさんの人と関わること。		・実際の活動を通して、よりよい方法を獲得すること。	・作業工程を固定せず、緩やかにすることで、自分のやりたいことができる。
意欲をもつこと	・目標数を意識して、取り組むこと。	・成功体験をすることで、意欲をもつ。褒められることで、意欲をもつ。興味をもつこと。	・目標を持って、それを達成して、他の人にも認められること。	・製品が使われている様子などを見て、「次は○○を作りたい」などの気持ちを狙いたい。 ・動機がある。
判断すること	・失敗したものを分けること。	・経験を通して、判断することに繋がる。 ・何が○で、何が×か分かること。	・自分の作業の出来ぶえを確認すること。	・周りの状況によって、自分のやることが分かる。
考えること	・自分で工夫したり、修正したりしながら、作業をすすめること。	・自分がやりやすいように工夫すること。	・作業がうまくいかないときに、どうしたらよいか考えること。	・作業効率を考えて自分なりに取り組める。
人との関わりをもつこと	・報告・連絡・相談ができること。	・教える立場、聞く立場が合わさる。 ・同じ空間で行う。 ・人のやっていることを見て学ぶ。 ・教師や友達とやり取りしながら学ぶこと。	・友達や教師と関わりながら、仕事を進めること。	・「終わりました」を伝えることができる。(報・連・相)

・各班の対話的な学び8つの視点意味づけ

項 目	カレンダー班	園芸班	木工班	紙上班
人との関わり	・自分から報告・連絡・相談をすること。	・協力するために、意思疎通が必要。 ・お互いに意思を出し合って、やりやすいように工夫する。 ・相手に合わせること。	・友達や教師とやり取りしながら進めること。	・教師の働きかけや友だちの動きを見て、活動すること。
協力すること	・友達や教師との関わりを積極的に取り入れること。		・一つの製品を仕上げるために、必要な部品を、他のグループの友達に要望すること。	・意図的に友達や教師と協力する場面を設けること。
振り返ること	・今日のできた数を教師と確認したり、友達に発表したりすること。		・今日の作業について、教師と確認したり、友達と共有したりすること。	・具体物としてつくったものの確認をすること。 (ほめられる経験)
伝えること	・自分の活動内容や質問、要求を伝えること。		・製品作りを進める上で困ったことや知りたいことを、友達や教師に伝えること。	・状況を見て、気がついたことを身振りや言葉で伝えることができること。
気づくこと	・友達の活動内容を知ること。		・製品の仕上がりを教師と一緒に確認することで、できていないところに気づくこと。	・物を介して、繰り返す中で、やることが分かること。
話し合うこと	・作業中は、静かに取り組むことを目標にしているため、話し合うことはしない。		・教師と作業量や出来高を確認したり、反省会で友達の発表を聞いたこと。	・班の目標や班での役割を、教師を介して決めること。
受け入れること	・簡単なことから、受け入れて、取り組む。		・教師との確認で、良し悪しを受け入れたり、友達にできた部品を渡したりすること。	・みんなで一つの物を使えること。
体験すること	・お客さんとやり取りを通して、社会的マナーを身につけること。		・販売会でお客さんとやり取りすることができること。	・友達と同じ場所に居られること。 (いつもと違う環境で活動する)

・各班の深い学びの8つの視点の意味付け

項 目	カレンダー班	園芸班	木工班	紙工班
調べる こと	・指示された内容を理解し、自分で考えて取り組むこと。	・指示された内容を理解し、その状況を判断すること。	・作業がやりやすい方法を考えたり、できたものでどんなことができるかを考えたりすること。	・実際に製品が使用されている様子を調べること。
振り返る こと	・作業内容向上や達成感、成就感を味わうことができること。	・繰り返し行う作業でよりよい方策を探ること。	・反省会で自分の活動を発表したりできた製品を見て、良し悪しを判断すること。	・使ってもらった感想を聞いてみる こと。 ・みんなが頑張ると、完成品が多く できることが分かること。
理解する こと	・作業効率が上げられるように、自分で工夫すること。	・自分のやるべきことが分かること。	・製品がきれいに仕上がる方法を自分で考えること。	・製品を作るための材料が分かる こと。 ・作業工程が分かり、製品の工程が 分かること。
伝える こと	・自分で数をかぞえたり、作業内容の報告をしたりすること。	・自分の考えや意見を言えること。	・体験して自分の考えを伝えたり、教師のアドバイスを受けたりして、できるようになったことを伝えること。	・友達や教師に向けて、自分たちの やっていることを伝えること。
体験する こと	・体験を通して、工夫したり、修正したりすることができること。	・たくさんの体験を通して、よりよいやり方を見つけたり、失敗から学んで次に生かすこと。	・友達がやっていることを見たり、繰り返し作業をやったりすることで、きれいに仕上げる ことができること。	・牛乳パックについて調べてみる こと。 ・牛乳パック集めをやること。 ・きれいな製品を作る工夫が できること。
受け入れる こと	・失敗から学ぶこと。	・友達と共同作業の際、お互いに作業効率を高めるための心遣いが できること	・友達のうまくできているところを真似たり、教師のアドバイスを 受けたりして、作業を行うことができる こと。	・教師の学習として、提起したことを きっかけに気づいて、受け入れる ことができること。
気づく こと	・自ら気づき、(作業内容や材料の有無など)相手に伝える ことができる。	・置かれている状況を判断し、自分が取るべき行動を 考えること	・作業場面の中で、自分で見たり、確認したりして判断 できること。	・それまでの経験から「次はこう したい」などに気づくこと。
考える こと	・自分で試行錯誤しながら、工夫して 取り組めること。	・作業を効率よく進めるためにどうしたら よいかを考える こと。	・製品をたくさんきれいに仕上げるため には、どうしたらよいかを考える こと。	・今の活動が将来に役立つことが 分かること。

ここまでで、2(3)研究の進め方③までを終え、各作業班での3つの学びの8つの視点の意味付けを行った段階である。その後は、まとめの工程として、ここまで挙げられた3つの学びの8つの

視点について研究係で話し合い、各作業班から挙げられた内容の共通する点や大切と思われる点を総合的に視点別にまとめものと全体のまとめを学部へ提案した。その際の資料が以下の表である。

12月8日 中学部における「主体的・対話的で深い学び」の意味付けのまとめ

・主体的な学びにおける8つの視点のまとめ

見通しをもつこと	自分の目標や活動内容が分かり自分から動くこと。
振り返ること	自分の目標が達成できたかどうかを振り返ること。
環境を整えること	① 自分からやりやすいように道具や材料の置き場所を整えること。 ② 落ち着いて時間いっぱい活動に取り組むこと。
体験すること	① いろいろな活動内容を体験し、得意な活動を見つけること。 ② 繰り返して行うことでよりよい方法の獲得につなげること。
意欲を持つこと	目標を持って、それを達成して、他の人に称賛・認められること。
判断すること	① 自分の活動を確認し、そのできばえの良し悪しを判断できること。 ② 周りの状況に応じた活動ができること。
考えること	① 自分がやりやすいように活動の効率（やりやすさ）を工夫すること。 ② うまいいかない時にどうしたらよいか考えること。
人との関わりを持つこと	友達や教師との関わりの中で報告・連絡・相談ができること。

・主体的な学び全体のまとめ

・自分の目標や活動内容が分かり、自分から動いて、達成できたかどうかを振り返ること。 ・うまくいかない時には、どうしたらよいか考えて取り組むこと。 ・自分から報告・連絡・相談ができること。

・対話的な学びにおける8つの視点のまとめ

人との関わり	① 友達や教師との関わりの中で報告・連絡・相談ができること。 ② 教師の働きかけや友達の動きを見て活動すること。
協力すること	① 活動を行う上で、必要なものを友達に要求すること。 ② 相手に合わせること。
振り替えること	① 教師や友達と自分の目標が達成できたかどうかを振り返ること。 ② 目標を持って、それを達成して、他の人に称賛・認められること。
伝えること	友達や教師に自分の要求を言葉や身振りで伝えること。
気付くこと	教師や友達と一緒に活動内容の確認をすることで、うまくできたことやできていないことに気づくこと。
話し合うこと	教師や友達と一緒に、班の目標や班での役割を決めていくこと。
受け入れること	① 物の受け渡しをしたり共有したりすること。 ② 友達や自分の成功や失敗を認めること。
体験すること	① 物の受け渡しができること。 ② 学級と違う集団での活動に参加することができる。

・対話的な学び全体のまとめ

友達や教師とやりとりする中で、自分の要求や報告・連絡・相談ができること。
 友達や教師とやりとりする中で、相手と気持ちや動きを合わせること。

・深い学びにおける8つの視点のまとめ

調べること	① 自分たちの作った製品について考えること。 ② 教師や友達、自分のアイデアを生かしてやりやすい方法を選んだりみつけた りすること。
振り返ること	① 自分の活動を発表したり、人の発表を聞いたりして、達成感や成就感を持つこ と。 ② 達成感や成就感からより良い方法を考えること。
理解すること	① 作業工程が分かること。 ② よりよい製品を効率よく作るために自分で考え、工夫すること。
伝えること	自分たちの活動について報告すること。
体験すること	① 活動の中で、真似したり、修正したりすること。 ② 成功体験や失敗体験を繰り返しより良いものをつくる工夫ができること。
受け入れること	① 友達の真似をしたり、教師のアドバイスを受けてたりして活動に取り組むこと。 ② 成功体験や失敗体験を繰り返し、より良いものをつくる工夫ができること。
気付くこと	活動の中で経験から置かれている状況がわかり、行動できること。
考えること	試行錯誤しながら、効率や出来栄えを意識して取り組むこと。

・深い学び全体のまとめ

友達や教師の活動を見たりアドバイスを受けてたりして、よりよい方法を考えて取り組むこと。
 試行錯誤しながら成功体験や失敗体験を重ね、自分でよりよい方法を考えて取り組むこと。

4 本年度の研究まとめ

(1) 成果

全校の研究テーマである「主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善」を受けて、9月の全校研究会で新学習指導要領の視点について学んだ。作業班ごとにテーマに沿ってのディスカッション形式で研究を深め、中学部としての視点を導き出していった。

初めに、「主体的な学びとは」「対話的な学びとは」「深い学びとは」について、生徒の作業場面で見られる姿から挙げてみた。各班からたくさんの姿が挙げられたが、「主体的な学び」に比べて「対話的な学び」や「深い学び」ができていない面が見られたので、これを実現できるような場面を設定することが重要と考えられた。「主体的な学び」についても、生徒が試行錯誤しながらさまざまな学びを体験し、身につけることができるような状況が必要であることが分かった。

マンダラチャートを活用した「主体的・対話的で深い学び」の意味づけに関しては、それぞれの学びの要素の中に共通して入る視点が多い面から、この3つの学びは独立して成り立っているものではなく、関連しながら達成できていくものだということが分かった。

最後に班ごとにまとめた3つの学びの実現のための視点から、共通している視点をまとめて「中学部としての主体的・対話的で深い学び」の意味づけにまとめた。この意味づけは、作業学習以外の学習を計画し進める上でも、支援のポイントにできるものと思われる。

中学部としての主体的・対話的で深い学びの意味づけ

- ・ 自分の目標や活動内容が分かり、自分から動いて、達成できたかどうかを振り返ること。
- ・ うまくいかない時には、どうしたらよいか考えて取り組むこと。
- ・ 友達や教師とやりとりする中で、自分の要求や報告・連絡・相談ができること。
- ・ 友達や教師とやりとりする中で、相手と気持ちや動きを合わせること。
- ・ 友達や教師の活動を見たりアドバイスを受けていたりして、よりよい方法を考えて取り組むこと。
- ・ 試行錯誤を重ね、自分でよりよい方法を考えて取り組むこと。

(2) 課題

今回、新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいて、現在、実践している生徒の作業の姿を重ねて考えていくと、たくさんの場面が上げられた。今後は、これまで実践してきたように人との関わりの中で、生徒が自分の仕事に自分から取り組めるような姿を大事にしながら、生徒自身が「どのように学ぶか」という視点を意識して授業を進めていく必要がある。生徒一人一人の興味関心や特性に応じた内容を組み立て、友達や教師とやりとりする中で、生徒が体験し、実感し、その力を日々の生活につなげていくことができるような授業作りが大事だと考える。そのためには、何がどこまでできていて、どこができないのかなどの評価を丁寧に行い、「主体的・対話的で深い学び」ができるようにさらに手立てを改善して、実践していきたいと考える。

(3) 次年度の研究

①研究のテーマ（仮）

「中学部作業学習の主体的・対話的で深い学び」 ～授業実践を通して～

②テーマ設定の理由

今年度の研究では、作業班ごとのディスカッションを中心にして、生徒の活動の姿から「主体的な学びとは」「対話的な学びとは」「深い学びとは」の意味づけを見出すことができた。

次年度は、今回の研究で意味つけた内容を検証するためにも、授業実践を行う必要がある。これまで大切にしてきた実践を手掛かりにしながら、生徒一人一人が「学び」を実感できる活動を実践していきたい。

資料 中学部普通学級の日課表

	月	火	水	木	金
9:00	日常生活の指導(着替え・清掃・係活動・朝の会等) 保健体育(朝の運動)、自立活動				
10:00	課題学習 (国語、数学、自立活動等を合わせた指導)				生活単元 学習 総合的な 学習の時間
10:30	作業学習 (木工 紙工 園芸 カレンダー)			保健体育	
12:00	日常生活の指導 (給食・歯磨き等)				
13:00	生活単元学習	総合的な 学習の時間		音楽	学級活動
13:45				自立活動	
				生活単元 学習	
				総合的な 学習の時間	
14:30	日常生活の指導(着替え・係活動・帰りの会等)				

語句説明

「作業学習」	紙工班・カレンダー班・木工班・園芸班の4班体制で1、2、3年生の縦割りグループで実施している。(重複学級の生徒も含む)3年間で、できるだけ多くの作業班を経験することを基本にしている。
「課題学習」	認知面での発達段階や障害特性など、個々の課題に応じて、各学年3グループで実施している。卒業後の自立に向けて、国語・数学の基礎的な知識や技能を身につけたり、社会性・対人関係、コミュニケーションの基礎的能力を育てたりすることをねらって取り組んでいる。
「生活単元学習」	学年・学級ごとに実施している。生徒が興味・関心をもてる題材を中心にしているいろいろなことを体験して生活を豊かにしたり、人との関わりを通してコミュニケーション力を高めたりすることができるように進めている。
「総合的な学習の時間」	「すいかタイム」として学年ごとに実施している。「自分たちが住んでいる地域を知ろう」「職業について学ぼう」「身近な社会を学ぼう」などと学年ごとにテーマを決めて取り組んでいる。

高等部研究部会

- 1 今年度の計画
- 2 研究方法
- 3 研究結果
- 4 本年度研究のまとめ

資料 高等部普通学級の日課表

高等部の研究

1 今年度の計画

今年度の高等部研究は、全校研究テーマの「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」という3つの学びの全校意味づけを導き出すため、高等部の意味づけを行うことと、次年度の高等部授業研究会対象授業を選定することを中心に行う。具体的な計画は以下のとおりである。

	概 要
10 / 4(水)	・ 今年度の学部研究提案 ・ 第2回全校研アンケート(高等部研究部会メンバー分)集計報告
10 / 18(水)	・ 想定授業別3つの学びの意味づけをグループ別に協議し、発表する。
11 / 2(木)	(全校研究会③) *学部研究について外部講師に提案し、助言をもらう。
11 / 22(水)	・ 3つの学びの意味づけ学部検討①
12 / 6(水)	・ 3つの学びの意味づけ学部検討②&③ → 全校研究へ報告
1 / 17(水)	・ 次年度の高等部授業研究会対象授業を選定する。 ・ 全校の3つの学びの意味づけを学部検討
1 / 24(水)	・ 次年度指導案様式学部検討
1 / 31(水)	・ 学部の時計台原稿検討①
2 / 7(水)	・ 学部の時計台原稿検討②
3 / 7(水)	(全校研究会④) *全体研究および各研究部会のまとめと次年度研究方針の報告

2 研究方法

(1) 想定授業別グループ協議による3つの学びの意味づけ * 10 / 18

想定授業；①作業学習

②学年グループ授業(課題学習、職業科・家庭科)

③教科(保健体育、音楽、選択教科)

④学校生活(ホームルーム、部活動、生徒会活動、日常生活の指導 等)

(2) 3つの学びの意味づけ

① 3つの学び別の学部意味づけ * 11 / 22

② 「3つの学び別の具体的な生徒の姿と教師の取り組みアンケート」の集約による各キーワードの学部職員イメージ共有化 * 12 / 6

③ 学部の3つの学びの意味づけ確定 * 12 / 6

(3) 次年度の高等部授業研究会対象授業の選定 * 1 / 17

3 研究結果

(1) 想定授業別グループ協議による3つの学びの意味づけ

想定授業；①作業学習

②学年グループ授業（課題学習、職業科・家庭科）

③教科（保健体育、音楽、選択教科）

④学校生活（ホームルーム、部活動、生徒会活動、日常生活の指導 等）

①作業学習グループの発表

○「主体的な学び」

- ・生徒が作業班を希望選択し、自分から取り組む姿。
- ・目標や手立てによって、自分から取り組む姿。

○「対話的な学び」

- ・手立てとなる教師からの話や、手本や見本を見て取り組む姿。
- ・教師からの指示を理解する姿。

○「深い学び」

- ・今日の作業学習に何が必要なのかを考えて、道具の用意、準備をする姿。
- ・天候に影響を受ける外作業班の生徒が、天気を見て道具の用意や準備をする姿。
- ・木工班では正確性を極めていく姿。
- ・自分達の積み重ねた成果として、販売会で地域の方と触れることにより達成感を得る姿。

②学年グループ授業（課題学習、職業科・家庭科）グループの発表

○「主体的な学び」

- ・生徒が、課題を実生活に生かせるまで、理解できる姿。

（例 調理学習では、買い物、調理、片付けを一日で行うことが大切なのではないか。

学期に一回で、買い物した翌週に調理する現状では、調理の準備から片付けまでを自分で行うことは身につけにくいのではないか。）

○「対話的な学び」

- ・日頃の学習からディベート、自分の意見を発表する姿。

（例 保健の授業では、なかなか意見が出てこなかった。保健の授業のためとも思われるが、日頃から自分の意見をみんなの前で発表したり、ディベートしたりする場面がもっとあると良い。）

○「深い学び」

- ・実際の生活の中で判断し、行動できる姿。

（例 清掃検定で級を取得することで終わるのではなく、実生活の中で吹きこぼれたときにさっと拭けることや重ね拭きをすることの意味は何かを理解することが大切である。そこまでできると、清掃検定が検定だけに終わらず普段の作業学習や現場実習に生かせると思う。教師の意識を変えることでより深い学びになるのではないか。）

③教科（保健体育、音楽、選択教科）グループの発表

＊主体的・対話的・深い学びはきれいに分けられる物ではなく、混じり合ったり交差したりしていると考えられる。この3つが連鎖して生徒の力になっていくのではないか。

○「主体的な学び」

- ・ 具体的な目標を持って主体的に取り組む姿。
- ・ 自分達の演奏等を振り返ることによって、次への意欲になる姿。
- ・ 興味、関心によって、向上心が芽生える姿。

（例 その歌への興味、関心を持っていると、「うまくなりたい」という向上心が芽生える。

その向上心が、音楽の歌詞カードを見て一人で歌うという生徒の主体的な姿につながるのではないか。）

○「対話的な学び」

- ・ 教師への質問や、他学年との関わり等、生徒自身から発信する姿。
- ・ 制作活動や集団活動など、ひとつの物を作り上げるために必要となる、生徒同士が協力しあう姿。
- ・ 教師から「こうするともっとよくなる」というアドバイスを受けて、知識を得る姿。
- ・ 生徒同士が知識の共有をする姿。

○「深い学び」

- ・ 合奏や合唱等で、上達していく姿。
- ・ 様々なジャンルの音楽を聴くことにより、自分の好きな音楽を知る姿。
- ・ 体の動き、筋力の使い方を覚えることで、日常生活の中に生かせる姿。それにより、自分自身への理解を広げる姿。
- ・ 教科学習から余暇活動につながる姿。

④学校生活（ホームルーム、部活動、生徒会活動、日常生活の指導 等）グループの発表

○「主体的な学び」

- ・ 部活動は、希望者を対象にした活動である。自ら入部を希望し、意欲的に取り組む姿。
- ・ 生徒会活動は、立候補した生徒による活動である。生徒会活動は不定期的なこともあり、時間や内容を自分から確認したりする姿。
- ・ 自分が自信の持てる活動や経験のある活動に取り組むことによる主体的に活動する姿。

○「対話的な学び」

- ・ ホームルームでは、係分担や学級委員等、クラスの生徒同士で話し合う姿。
- ・ 友達との関わりの中で、他の友達が先生から指導を受けていることを見聞きして学ぶ姿。
- ・ 友達が良いことをしていることを見て学ぶ姿。

○「深い学び」

- ・ ホームルームの司会等、繰り返し行う活動によって、自信がついた姿。
- ・ 学校生活グループは、（ホームルーム、部活動、生徒会活動、日常生活等）主体的な学び、対話的な学びにはつながりやすいが、それを深い学びにつなげていくのは難しいと感じた。今後の課題である。

(2) 3つの学びの意味づけ

① 3つの学び別の学部意味づけ

第3回全校研究会と想定授業別グループ協議の内容から、この段階での3つの学び別の学部意味づけを、以下のように整理した。

主体的な学び	自分で考え、行動する学び
対話的な学び	見る・話す・経験するなどの様々な方法による学び
深い学び	(学校・家庭・社会・将来の)生活に生きる学び

② 「3つの学び別の具体的な生徒の姿と教師の取り組みアンケート」の集約による各キーワードの学部職員イメージ共有化

○ 「主体的な学び」＝「自分で考え、行動する学び」

<生徒の姿>

- ・ 学ぶことに興味関心を持ち、自ら課題を見つけ学習に取り組む姿。
- ・ それぞれの目標をもって学習に取り組む姿。
- ・ 自ら質問したり、報告したりする姿。
- ・ 自分の得意なことや自信をもって取り組めることを学校生活で探していく姿。

<教師の取り組み>

- ・ 「もっとやりたい」と思える授業内容や意欲が高まる言葉かけの工夫。
- ・ 生徒それぞれのニーズを正確に把握すること。
- ・ 生徒自身が学習内容等を選択できるようにすること。
- ・ 具体的で評価しやすい目標作りの支援。
- ・ 課題を見つける手助けや助言、目標に対する支援。
- ・ 生徒自身が考えられるような課題や発問の準備。
- ・ 生徒の表情が「わかった」となるまで授業の工夫を積み重ねていくこと。
- ・ 教材等を生徒に合わせて考えていくこと。

○ 「対話的な方法」＝「見る・話す・経験するなどの様々な方法による学び」

<生徒の姿>

- ・ 自分の意見や意思を人に伝える姿や人の意見を聞く姿。
- ・ 友達や教師の意見を受け入れることができる姿。
- ・ 他者と協力して仕事を進める姿や互いにうまくできるコツ等を話し合い取り組む姿。
- ・ 分からない時や疑問がある時等に質問することができる姿。
- ・ 報告、連絡、相談ができる姿。
- ・ 他の生徒や教師、地域の方との関わりを通して、自分の考え・価値観を広げていく姿。
- ・ 相手の気持ちを考える姿や相手を思い自分の気持ちに折り合いをつける姿。
- ・ 相談やサインを出して自分の気持ちを伝えて、より良く取り組もうとする姿。
- ・ 視覚、聴覚などあらゆる感覚を使って情報を収集する姿や得た情報を活用する姿。

<教師の取り組み>

- ・生徒に合ったグループ学習やペアワークなどの機会を増やすこと。
- ・行事などの地域交流の機会では、積極的な交流ができるように配慮すること。
- ・全員が発言できるような環境や空気作り。生徒の行動や思いを肯定的に受け止めること。
- ・教師がすぐに介入するのではなく、時には生徒同士のやりとりを見守ること。
- ・生徒に合わせた報告、連絡、相談方法の指導。
- ・障害の特性など一人一人に合わせた関わり方。
- ・人によって考え方や捉え方が異なることを伝えること。
- ・教師が手本となり、活動や作業の取り組み方を示すこと。
- ・どんな協力の仕方があるのか一緒に考えること。
- ・自ら進んで活動に取り組む姿が「この活動を気に入っています」という本人の思いであると感じること。逆の姿が見られたら「もっと工夫して」の思いであると受け止めること。

○「深い学び」＝「(学校・家庭・社会・将来の)生活に生きる学び」

<生徒の姿>

- ・社会に出たときを考えて、敬語を使うなどのより良い人間関係を築こうとする姿。
- ・相手の気持ちを考えて言葉を選び、話す姿。
- ・ルールやマナーの理解や理解しようとする姿。
- ・授業で学んだことを授業以外の様々な生活場面で応用する姿。
- ・今まで学んだことを更に工夫して学習していく姿。
- ・自分の知っている知識や行動様式等を、その場の状況や活動に応用する姿。
- ・「何が自分の課題なのか」を理解し、改善について考え、行動する姿。
- ・自分で課題を見つけ、調べ、体験して解決する姿。
- ・自分の見方や考え方を広げ、充実した日常生活を送る姿。
- ・生活の中で苦手なことにも挑戦し、少しでもできることを多くして自信をつけていく姿。
- ・自立するために必要なことを考える姿。(アパートの借り方や家賃の支払い方、公共料金の支払い方法、1ヶ月の食費計画、銀行口座の作り方や入金、出金の仕方等)
- ・食事の作り方や洗濯、アイロンなどの生活に役立つ力を身につけていく姿。
- ・社会において自分の果たす役割を理解し、できることで社会貢献していく姿。
- ・自分の意志で進路先を決定する姿。
- ・「できるようになった」と感じたり、周りから評価されたりして自信をつけていく姿。
- ・考え方も含めて、繰り返し練習したことが周囲からよい評価を受けて自信となる姿。

<教師の取り組み>

- ・生徒に対して適切な言葉遣いを日頃から心がけること。
- ・生徒の手本となる行動をすること。
- ・校外の場での人との関わり方やコミュニケーションのとり方を学ぶ機会を設けること。
- ・約束ごとをつくり、守ることを身につけられるようにすること。
- ・他人との関係で折り合いをつけていくことの大切さを知る機会を設けること。

- ・断片的な学びに終わらず、一つの行動の意味（なぜそれをするか）に気付ける力を養えるように繰り返し指導支援していくこと。
- ・買い物学習を通して、商品の金額を計算して商品選びをする学習に取り組むこと。
- ・生徒が自信になる活動の場を設定し、できたら評価して、次の新しい場面を設定していくこと。
- ・日常生活に沿った指導や生徒が考えられる題材を設定すること。
- ・授業で扱う内容を生活習慣など身近に関わりのあるものにしていくこと。
- ・本当に身につけるべきことを精選し、指導していくこと。
- ・生徒が一人でも実施できる方法を授業の中で提示すること。
- ・すぐに答えを教えるのではなく、考える時間を作っていくこと。
- ・繰り返し授業を行い、定着を図ること。
- ・卒業後、相談できるような信頼関係を在学中に築いておくこと。
- ・生徒の話聞きながら様々な情報をわかりやすく伝えること。
- ・生徒の実態を見極め、具体的な取り組みを繰り返して汎化させていくこと。
- ・評価を生徒にわかりやすく伝え、ほめること。
- ・小さな向上や努力を見逃さず、言葉をかけて励ましていくこと。
- ・様々な活動を通して課題について伝え、改善できる手立てを講じること。
- ・自身の振り返りを含めた評価を意識して、ステップアップする道筋をつけていくこと。
- ・様々な立場にいる人が、同じ対応をして生徒にとって一貫した指導、支援を行うこと。

③学部の3つの学びの意味づけ確定と次年度の方向性

- ・高7ページの本年度のまとめ参照。

4 本年度の研究まとめ

(1) 高等部の研究テーマ意味づけ

はじめに、高等部の学校生活を網羅する4つの想定授業別にグループを作り、研究テーマにあがる3つの学びを協議した(高2～3ページ参照)。そこから「主体的な学び＝自分で考え、行動する学び」、「対話的な学び＝見る、話す、経験するなどの様々な方法による学び」、「深い学び＝生活に生きる学び」と整理された。つぎに、3つの学びを学部職員で共有化するため、「3つの学び別の具体的な生徒の姿と教師の取り組み」をアンケートにより洗い出した。(高4～6ページ参照)

このように学部研究を進めていき、全校研究テーマの学部意味づけを以下のように整理した。

全校研究テーマ 「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」
高等部・意味づけ 「自分で考え、行動する主体的な学びの姿を 見る・話す・経験するなどの様々な対話的な方法で その授業だけでなく、生活に生かせる深い学びとなるように 授業改善を積み上げていくこと」

【高等部・意味づけについて】

授業では「生徒の主体的な姿」を目指す。主体的な姿を目指すに当たって対話的な方法を意識する。対話的な方法とは、言葉によるコミュニケーションという狭い意味にとどまらず、生徒の活動する姿から読み取れる思いや生徒自身が見たり経験したりして気づくことも含めた様々な方法ととらえる。そして、授業での主体的な姿が学校生活、家庭生活、社会生活、将来の生活に生きる深い学びとなるように、繰り返し授業改善を積み上げていくことが大切であるという意味である。

高等部では研究テーマの意味づけを3つの学び別に分けるよりも、ひとつの文章として関連性を意識することに意味があるとの思いから、あえて一文で整理した。

(2) 次年度の方角性

①学部研究テーマ(仮)

「高等部作業学習における主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践」

②学部研究テーマについて

次年度は、作業学習での授業研究会をとおして研究テーマに迫っていく。かねてから「主体的」をキーワードに授業実践に励んできたので、今までの主体的な作業学習の姿を整理していくとともに、本校における対話的な学びの方法を探りながら、生活に生かせる深い学びにつながる実践にしていきたい。高等部における生活に生きる深い学びなので、学校生活・家庭生活・社会生活に生きる深い学びにとどまらず、卒業後の働く生活にも生きる深い学びとなるように取り組んでいきたい。

資料 高等部普通学級の日課表

	月	火	水	木	金	分
	自主通学生登校 8：30～8：45 着替え・校内清掃 8：45～9：00 自習 スクールバス通学生登校 8：50～9：00					
9：00～ 9：20	日常生活の指導（着替え・係活動・ホームルーム）					20
9：25～10：15	保健体育／自立活動(身体の動き)				音楽	50
10：25～11：15	作業学習				職業 家庭 自立活動	50
11：15～12：05	作業学習					50
12：05～12：55	日常生活の指導（給食・休憩）					50
13：00～13：50	課題学習			選択教科	ホームルーム／部集会	50
14：00～14：30	日常生活の指導（清掃・着替え・ホームルーム）					30
	下 校					

【部活動】スクールバス通学生を含む希望者が、週2日間（14:30～15:00）実施している。

日課表の語句説明	
「作業学習」	木工班・手芸班・工芸班・陶芸班・農工班・栽培班の6班体制で1, 2, 3年生の縦割りグループで実施している。重複学級の生徒も作業班に所属し、活動時間や活動場所等を生徒に合わせて取り組み、販売会にも参加している。
「選択教科」	太鼓、ダンス、踊り、情報、自然科学・地理、美術・手芸の6つのグループがあり、生徒の希望からグループ所属を決めて1年間活動している。
「課題学習」	国語的、数学的、自立活動的な内容を生徒一人一人に合わせて取り組んでいる。
「ホームルーム／部集会」	ホームルームを基本とし、学期の始めと終わりに担当学年生徒企画で学部集会を行う。長期休業に向けての生徒指導の内容等も盛り込んでいる。

AC 学級研究部会

- 1 今年度の計画
 - 2 研究の方法
 - 3 研究結果
 - 4 本年度の研究まとめ
 - 5 AC 学級の日課表
- 資料 AC 学級の自立活動について

重複学級・訪問学級（AC 学級）研究部会

1 今年度の計画

（1）授業研究会の日程

10月17日（火）	高等部	部内研究会	
11月 2日（木）	小学部	全校研究会	講師招聘
11月22日（水）	小学部・高等部	部内研究会 （ビデオ視聴・検討）	
11月20日（月）	中学部	部内研究会	
11月29日（水）	中学部	部内研究会 （ビデオ視聴・検討）	

（2）講師について

小倉京子先生（千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事）

2 研究の方法

（1）研究のねらい

- ・新学習指導要領の改訂のポイントにあげられている3点に焦点を当てて取り組む。
- ①社会に開かれた教育課程の実現、育成を目指す資質・能力、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえたカリキュラム・マネジメント、指導方法の実現など、初等中等教育全体の改善・充実の方向性を重視。
- ②インクルーシブ教育システムの推進により、障害のある子どもたちの学びの場の柔軟な選択を踏まえ、幼稚園、小・中・高等学校の教育課程との連続性を重視。
- ③障害の重度・重複化、多様化への対応と卒業後の自立と社会参加に向けた充実。

（2）研究の進め方

- ①校長より新学習指導要領についての講義を受ける。その後 AC 学級でどのように意味づけを行い、進めていくかを検討する。
- ②「主体的・対話的で深い学び」とは何かを意味づけるために小学部から高等部までの学部が授業研究を展開した。それぞれ自立活動に基づいた授業で、小学部は「音楽を通して教師や友達とやりとりをすること」、中学部は「絵本の世界を実際に体験し担任以外の教師とやりとりをすること」、高等部は「ロールプレイングの中で友達に自分の気持ちを伝えること」に取り組んだ。
- ③授業メモを見ながら各学部の授業をビデオで振り返りを行う。その際3つの学びを意識して児童生徒の学習の様子や教師とのかかわり方について検討する。
- ④研究会の協議内容や講師の指導・助言、AC 研究メモを基に、AC 学級が考える「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」とは何か、意味づけについて整理し妥当性を探る。
- ⑤意味づけをした各学びにより、今年度のまとめと来年度の課題とテーマを明らかにし、深め、授業改善をする。
- ⑥1年間の研究内容について実践報告を行い、実践報告集に記載する。

3. 研究結果

小学部授業メモ

- 1 題材名 自立活動「おんがくであそぼう～なんのおと?～」
- 2 題材の目標
 - ・音楽の活動を通して、教師や友達と自分なりの方法でやり取りすることができる。**(主) (対)**
 - ・自分が使いたい楽器を選択することができる。**(対)**
 - ・様々な楽器の音の違いに気付くことができる。**(対) (深)**
- 3 指導計画 (※省略)
- 4 本時の指導
 - (1) 本時の目標
 - ・「からだコンサート」では、一緒に手遊びをする教師を選択することができる。**(主) (対)**
 - ・「なんなんだーゲーム」では出題者が鳴らした楽器の音を聴き、2種類の楽器から選択することができる。**(主) (対)**
 - ・「むしのこえ」の合奏では、友達の演奏に気付くことができる。**(対) (深)**
 - (2) 本時の展開

時配	学習活動	支援上の留意点	教材等
2分 7分	○ はじめのあいさつをする。 ○ 「からだコンサート」をする。	・ T1、T2、S1が児童の前で手を伸ばし「一緒にやろう」と言葉をかけ、表出を待つようにする。 (T1～S1) (主) (対)	ホワイトボード 進行表 CD デッキ
20分	○ 「なんなんだーゲーム」をする。 ①今日の楽器を知る。 ②出題者を決める。 (主) ③出題者は3種類の楽器から自分が鳴らしたい楽器を選択する。 (主) (対) ④準備ができたことを回答者に伝え、出題者は「なんだ!なんだ!なんのおと?」のかけ声を聞いてから楽器を鳴らす。 ⑤回答者は楽器を選択する。 ・ Aは3種類、BとCは2種類の楽器から選択する。 (対) ⑥答え合わせをする。 ・ 出題者は教師のかけ声と共に、楽器を鳴らしながら登場する。 ※出題者を変えながら③～⑥を3回繰り返す。	・ 楽器の種類がわかるように音を鳴らしながら提示する。(T1) ・ 「やりたい」という表出があった児童から1～3番を決める。 (T1) (主) ・ 教師が楽器を鳴らしながら提示し表出を待つ。(T1～S1) ・ 楽器を鳴らす際、必要に応じて教師が手を添えるようにする。 (T1～S1) ・ 反応が少ないときや、困っている様子が見られたときは出題者に楽器を鳴らしてもらうようにする。 ・ 音の違いに気付くことができるように、出題者と回答者が同時に音を鳴らす。(T1～S1) (対) (深)	トライアングル タンブリン マラカス パーティション
15分	○ 「むしのこえ」の合奏をする。 ・ 「なんなんだーゲーム」で使用した楽器から自分が使いたいものを選択する。 (対) (深) ・ 合奏に取り組む。 (深)	・ 個別に「どの楽器かな」と言葉をかけ、一つずつ楽器を鳴らし、視線、発声、身体の動きを待つようにする。(T1) (対) (深) ・ 自分が楽器を鳴らす順番だとわかるように、顔写真入りの歌詞カードを掲示する。	キーボード トライアングル タンブリン マラカス 歌詞カード
1分	○ おわりのあいさつをする。		

	授業者が考える各学び	視聴者が気付いた各学び
主体的な学び	- 一緒に手遊び歌をしたい教師を選択する。 「出題者係をやりたい」と表出する。 - 自分が使いたい楽器を選択する。(なんなんだーゲーム・合奏) ◎自分がやりたいこと(興味・関心、好きなこと、好きな人等含む)を選択する。	- 自分で考えたり、選択し、決めたり、鳴らしたりする。 - 選んだ教師と一緒にできるというのは主体的な活動。 - 実物を使った活動は興味を引き出しやすい。 - 手遊び歌で教師を選択する。 - 出題者係を募る場面。 - 使いたい楽器を選ぶ。 3人とも教師を選択肢、わかりやすく伝えている。 - 授業の始まりのあいさつのところで、「これから始まる」という期待感を持っていることが表情から伝わる。 - 好きな楽器を選び、鳴らす。 - 好きな楽器を持つと鳴らし続け、その音を楽しんでいる。 - 楽器を選び、鳴らす。 「やりたい」「これがいい」という気持ち、視線、表情、手の動きなどで伝える。 - 楽器を持っている手を動かすと音が鳴る学び。
対話的な学び	- 一緒に手遊び歌をしたい教師を選択する。 - 自分が使いたい楽器を選択する。(楽器当てゲーム・合奏) - 楽器の音を聴いて、2～3種類の楽器から選択する。 - 楽器あてゲームの答え合わせの際、自分と出題者が鳴らしている楽器の音に気付く。 ◎人や物を介して「やりたい」「やりたくない」等の気持ちを身近な教師に伝える。	- 教師の問いかけに、考えて自分なりの方法で伝える。 - 友達対友達でのやりとり - 自分が使いたい楽器を選択する。 - 児童と教師の対話。 3人とも教師を選択し、わかりやすく伝えている。 「やりたくない」を伝える。 - 音を聴いて、同じ楽器を選び、教師に伝えることができる。 - 教師との対面での手遊びで、表情で気持ちを表出し教師に伝えようとしていた。 - 楽器の音を聴き、異なる音には首を振り、その音だとわかったときには動きを止め、頷く。 - 自分が使いたい楽器を選択する際、顔を上げたり目線を合わせたりしていた。 - T1、T2ではなくS1がいいと伝えられたこと。 - 教師とのやりとりの中で、気持ちを切り替え楽器を選択。 - 教師と対話している様子を目の前で見る。
深い学び	- 楽器あてゲームの答え合わせの際、自分と出題者が鳴らしている楽器の音に気付く。 - 音当てゲームで使った楽器を使用し、合奏に取り組む。(合奏) - 友達が鳴らしている楽器に気付く。 ◎環境(物・人等)の変化に気付く。 ◎本時の活動を日常生活でも活かす。	- 楽器の音を聴いて、違いに気付く。 - 教師と確認しながら出題者の音を考え当てる。 - 鳴らしている楽器の種類に気付く。 - 選択した教師が、選択できなくなることで、自分が選ぼうと思っていた教師を他の友達も選ぶことがあることを知る。 - 自分が鳴らす所、友達の音を聴く所と場面の切り替えができるようになるのは深い学び。 - 好きな楽器を持つと鳴らし続け、その音を楽しんでいる。 - 教師を選ぶ(選択)⇒ゲーム⇒合奏という流れを知る。 - S1がいいと伝えたのに、それが叶わず葛藤している時。そして折り合いをつける。あきらめる、ふてくされるなどの気持ちを至る過程。 - 楽器で虫の声を表現する。

中学部重複学級 自立活動

1 題材名 「お話の世界を体感しよう～おとどけものでーす！～」

2 題材の目標

- ・絵本に視線を向けたり注視したりして見聞きすることができる。(環境の把握) **(主)**
- ・自分なりの方法で返事ややりとりをしたり、返事をする友達の様子に注目したりすることができる。(コミュニケーション) **(対)(深)**
- ・それぞれの方法で箱を開けることができる。(身体の動き) **(主)(深)**

3 指導計画 (※省略)

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・配達屋さんに名前を呼ばれたことに気付き、視線を合わせたり、返事ややりとりをしたりすることができる。(コミュニケーション) **(主)(対)**
- ・手指や腕を動かして、箱を開けることができる。(身体の動き) **(主)(深)**

(2) 本時の展開

時配	学習活動	支援上の留意点	教材等
4分	○「はたらくくるま」の歌を聞き、学習の始まりを知る。 ○はじめのあいさつをする。 ○学習内容を知る。	・音楽を聞いて学習が始まることがわかるように、教師は沈黙し、音楽に集中できるようにする。	・CD デッキ ・マイク
10分	○絵本「おとどけものでーす！」を見聞きする。 ・絵本を見ながら聞く。 (主)	・絵本に視線を向けられるように順番に一人一人の目の前に提示する。(T1) (主) ・お話に興味をもてるように、「ピンポン」の効果音を鳴らす。(T4)	・暗幕 ・いす ・絵本 ・効果音 ・ビッグマック
15分	○配達屋さんが登場する。 ・「おとどけもの」が届く。 ・一人一人の名前が呼ばれたら返事をして「おとどけもの」を受け取る。 (対) ○箱を開ける。 (主)(深) A: 箱が動かないように左手で押さえ、右手で持ち手を引いて箱を開ける。	・名前を呼ばれてから返事ができるように、「おとどけものでーす！○○さん」と言葉をかける。(T3) ・視線を向けたり、発声や口の動きで応えたりできるように、返事を待つ。 (対) ・名前を呼ばれた友達を意識しやすいように「○○さんを見ようね」と言葉をかける。(T1～介1) (深) A: 左手で箱を押さえやすいように、箱に持ち手をつけておく。 B: 手指を動かしやすいように肩肘、	・効果音 ・CD デッキ ・帽子 ・衣装 ・ビッグマック ・箱 ・キネティックサンド ・箱

	B：手指を動かしてひもを引き、箱を開ける。 C：左手で持ち手を引いて箱を開ける。 D：提示した持ち手に手を伸ばし、引っ張って箱を開ける。 E：自分で持ち手を持ち、引っ張って箱を開ける。 F：布を持って引っ張り箱を開ける。中身を取り出す。	手の緊張を緩めておく。自分の力でできたことを実感できるように少しの力で箱が開くようにしておく。 C：筋緊張が強い場合は緩みやすい姿勢をとるようにする。持ち手を引くことがわかりやすいように「引っ張ってね」「力を入れるよ」等言葉をかける。 D：持ち手に気付けるように、目の前に提示する。 E：視線を向けやすいように、見やすい位置に持ち手や箱を提示し、意識できるようにする。 F：箱が開いたことがわかりやすいようにマジックテープを用い、音がするようにする。取り出した中身を入れる場所がわかりやすいように、左横にトレーを置く。	・持ち手 ・トレー
8分	○箱の中身で遊ぶ。(主) ・キネティックサンドに触れ、感触を味わう。	・固めた状態とさらさらの状態の違いを感じられるように、両方の感触を確かめるよう支援する。(T1～S1) ・感触を味わえるように、手の平全体で触れたり、握りこんだり、キネティックサンドに手を埋めたりする。 ・気持ちを共有できるように、「気持ちいい?」「さらさらだね」等と質問したり、言葉で返したりする。(対)	・トレー
3分	○活動の振り返りをする。 ・本時の活動で頑張ったことや楽しかったことを発表する。 (主)(対) ○おわりのあいさつをする。	・発表したい人を尋ね、表出のあった生徒を指名する。(主) ・言葉をかけながら、生徒の表出をくみ取る。(対)	

《中学部としての意味づけ》

(A1・2組 授業者 T1、T2、T3、T4)

	授業者が考える各学び	視聴者が気付いた各学び
主体的な学び	・絵本に視線を向ける。(興味をもつ) ・それぞれの方法で箱を開ける。 ・キネティックサンドに触れる。 ・「頑張ったことや楽しかったことを発表したい。」と表出する。 ・頑張ったことや楽しかったことを発表する。(教師の発問に応える) 期待感を持ち、自ら課題に取り組む。	・発表したいという気持ちを伝えることができる。 ・期待感を持ちながら順番を待ち、自分の名前が呼ばれたら返事をする。 ・期待感を持って箱を開ける。 ・配達屋さんや箱から出てきたものに注目する。 ・自分から箱を開ける。 ・自分からキネティックサンドに触り、気持ちを言葉や表情で伝える。(対話的に書いた方も多数いる) ・箱の中身を取り出す。 ・絵本の「終わり」が分かるように、一人一人の前で本を閉じる。 ・生徒が絵本の内容を覚えて、読む(話す)。→繰り返しのものなら深い学び。
対話的な学び	・配達屋さんにも名前を呼ばれ返事ややりとりをする。(視線を向ける、発声、口の動き、タッチ) ・頑張ったことや楽しかったことを発表する。(教師の発問に応える) 担任以外の教師に名前を呼ばれたり質問されたりしたときに、自分なりの方法で表出することができる。	・絵本に視線を向け、T1の話に傾聴する。 ・担任以外の教師からの呼名に返事をする。 ・箱に書いてある自分の名前や写真に気づく。 ・動かす手を選択したり、お礼を言ったりする。 ・「やだ」と伝えることができる。 ・教師とのやりとりの中でキネティックサンドの感触や気持ちを伝える。 ・教師と一緒に笑う。(期待感でも笑う→深い学び?) ・教師の発問に答えることができた。 ・タッチや声、「ありがとうございました」の言葉等、自分なりの方法でやりとりすることができた。 ・一人一人の前に行き、良かったところを褒める。 ・選択することで自分の気持ちを伝えることができた。
深い学び	・それぞれの方法で箱を開ける。(朝の会、作業学習、課題学習等で出来る動きを他の場面でもできる) ・配達屋さんや名前を呼ばれた友達に視線を向ける。 ・繰り返しの学習で予測ができる。 環境(物・人等)の変化に気づき、表出する。 本時の活動を日常生活でも活かす。	・粘土の感触に気づき、手を動かす。 ・頑張ったことを選択し、相手に伝える。 ・箱の中身に期待感を持ちながら開けることができた。 ・配達屋さんを目で追う。 ・手の動きを日常に活かすことができる。 ・車の音を聞き、ドアの方を見たり登場を期待したりして笑う。 ・郵便屋さんの行き先(友達の方)を見る。 ・返事やお礼を日常生活に活かすことができる。

○その他・学習隊形が半円状になっていて、お互いが見やすかった。

高等部授業メモ

高等部重複学級 1、2 組 自立活動（課題学習）学習指導案

1 題材名 「人をお願いをしよう」

2 題材の目標

- ・自分にできるやり方で人をお願いすることができる。(主)(対)
- ・適切な態度、言葉づかいでお願いすることができる。(対)

3 指導計画(※省略)

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・相手の方向を見て呼びかけることができる。(主)(対)
- ・言葉づかいに気をつけてお願いをすることができる。(対)
- ・相手にお礼を言うことができる。(主)(対)

(2) 展開

時配	学習活動	支援上の留意点	教材等
1	○はじめのあいさつをする。(対)	・本日の日直が号令を行うように言葉をかける。(T 1)(対)	計算 プリント ボール ペン ビー玉 教材 書見台 (Eさんが使用)
7	○個別の学習課題を行う。(対) Aさん: ビー玉を穴に入れる学習 Bさん: 計算問題 Cさん: 計算問題 Dさん: ボールペンの組み立て Eさん: 計算問題 ○前時で学習した内容を確認する。(対)(深)	・生徒が、集中力を発揮できるように、今までの自立活動(課題学習)で取り組んできた学習をする時間を設ける。(T 1)(対) ・決められた時間の中でできるように、あらかじめ問題数を決めておく。(T 1～T 3)(主) ・決められた時間内で取り組むように言葉をかける。(T 1～T 3)(主) ・前時の反省点を確認することで、本時のロールプレイングに生かすことができるようにする。(T 1～T 3)(対)(深)	
2			
5	○本時の学習内容を確認する。(対) ○お願いをするためのポイントを確認する。(対)	・ポイントを確認していくことで、ロールプレイングをしている中で思い出すことができるようにする。(T 1～T 3)(対)	TV PC プロジェクター ipad (Eさんが拡大機として使用)、掲示物
お願いをするポイント ・相手の方向を見る。 ・丁寧な言葉でやさしく話す。 ・「お願いします」「ありがとうございます」と伝える。			
1	○ロールプレイングの内容を知る。(対)	・日常生活の場面と関連させて生徒に説明をする。(T 1)(深)	
本日の場面: 机と一緒に運んでほしい場面			
5	○教師の提示した良い例、悪い例を観て、お願いする方法を確認する。	・Eさんがipadの拡大機能を使用して視聴できるように場の設定を行う。(T 2)	良い例、悪い例を示した映像

17	○ロールプレイングに取り組む。(主) ・実施者が生徒役をし、T1が教師役を行う。(主) ・Aさん、Bさん、Cさん、Dさん、Eさんの順番で取り組む。	Aさん ・教師に呼びかける場面は、トントンと手で合図を送るように促す。(T3)(対) ・教師が代弁することで生徒の気持ちをくみ取るようにする。(T3)(対) ・「ありがとうございました」も、トントンと手で合図を送るように促す。(T3)(対) Bさん ・教師には、発声で呼びかけるように言葉をかける。(T1) ・「一緒に机を運んでください」はサインで伝えるように確認する。(T1)(対) ・上手く伝わらない場合も、相手から視線をそらさずに話しかけるように言葉をかける。(T1)(対) Cさん ・歩行が不安定なところがあるので、机を持つときには様子を見て、辛そうであれば手伝うようにする。(T2) ・会話の時には、自分から教師に聞こえる声で話しかけるように言葉をかける。(T1)(対) Dさん ・「お願い」「ありがとう」の言葉が出るように教師と一緒に事前に確認する。(T1)(対) ・「一緒に持ってください」の言葉が発することができるようであれば、発語を促す。難しいようであれば、教師が代弁することで生徒の気持ちをくみ取るようにする。(T1)(対) Eさん ・言葉かけに改善が必要な時には、もう一度相手に言葉をかけるように確認する。どのように言葉をかけたらよいか分からない様子が見られた時には教師と一緒に考える場面を設ける。(T1)(対) ・「ありがとうございました」の言葉が出なかった時は、教師と一緒に確認する場面を設ける。(T1)	
8	○ロールプレイングをして良かったところ、こうした方が良かったところを発表する。(深)	・分からない様子であれば、教師からの視点で良かった点、改善点を伝える。(T1)(深)	
4	○本時の振り返り、次回の確認をする。(深) ○おわりのあいさつをする。	・本時の内容を思い出すことができるように、活動の一つ一つ振り返る。(T1)(深) ・T1を見て、号令するように言葉をかける。(T1)	

	授業者が考える各学び	視聴者が気付いた各学び
主体的な学び	・ ロールプレイングに取り組むことで、自分から考えて行動する。 ◎教師が設定した場面の中で、自分が考えたことを自分なりの方法で伝えようとする。	・ iPadの拡大機能を使用。感覚を補いながら、自分から活用する能力、いろいろな場面で有効に活用できる。 ・ ヒントを与えずに自分で考えて言葉や行動するようにしていた。 ・ 良い例、悪い例の違いに注目し意見を出す。 ・ 自分の考え、友達の意見を基にロールプレイングに取り組む。 ・ T1に注目しており、自分で考えたことを自分なりの手段で伝えようとしている。
対話的な学び	・ 生徒と教師のやり取りの場面を多く設定し、言葉、サインを投げかける練習をたくさん行う。 ◎教師だけでなく友達にも自分の気持ちを言葉や身振り動作等で伝える。	・ ビデオを見た際、教師がたくさん発問し、生徒が応える場面を多く設定していた。(やりとり) ・ 友達の良い点、改善点を発表できると、対教師だけでなく、対話的な学び、深い学びにつながる。 ・ 教師からの発問が多く、言葉でのやりとりが増えた。 ・ T1の問いかけたことをしっかり聞いて、自分の意思を返しているそのやり取り。
深い学び	・ 生徒がやってきた活動を自分で振り返り、反省する。 ◎環境(物・人等)変化に気づき、対応する。 ◎本時の活動を日常生活でも活かす。	・ 日常生活の場面と関連させてロールプレイングを行う。具体的な場面を想定することで、学習したことが日常生活に生かせる。⇒日常生活で実践できたとき深い学びになる。 ・ どこに注目をして映像を見るか意識して2回目の映像を見る。 ・ 日々の生徒の行動を考えてからロールプレイングに取り組む。 ・ 良い例や悪い例の違いを考えたり理解したりする過程。 ・ 自分の活動を振り返り良かったことを考えていた。

4. 本年度の研究まとめ

(1) 【成果について】

①各学びについての意味づけ

- ・それぞれの学部で指導案、AC 研究メモ、ビデオ視聴によってあがった「各学び」について表にまとめ、共通項や学びの連続性が明らかになった。

	小学部	中学部	高等部	共通
主体的な学び	・自分がやりたいこと（興味・関心、好きなこと、好きな人等を含む）を選択する。	・期待感を持ち、自ら手を動かしたり視線を向けたりする。	・教師が設定した場面の中で、自分が考えたことを自分なりの方法で伝えようとする。	様々な場面で自ら考え、行動する。
「学びの連続性」：自ら考えて学習したり表出したりする。				
対話的な学び	・自分の好きなものを介して「やりたい」「やらない」等の気持ちを身近な教師に伝える。	・担任以外の教師に名前を呼ばれたり質問されたりしたときに、自分なりの方法で表出する。	・教師だけでなく友達にも自分の気持ちを言葉や身振り動作等で伝える。	やりとりをとおり、自分なりの方法で相手に気持ちを伝えていく。
「学びの連続性」：段階に応じて表出する方法と相手が広がる。				
深い学び	・環境（もの・人等）の変化に気付く。 ・本時の活動を日常生活でも活かす。	・環境（もの・人等）の変化に気付く。 ・本時の活動を日常生活でも活かす。	・環境（もの・人等）の変化に気付く。 ・本時の活動を日常生活や卒業後に活かす。	生活環境が変わっても、授業等で身につけた力を発揮する。
「学びの連続性」：環境が変わっても学んだことを活かす。				

- ・「主体的な学び」では活動への見通しがもてているため「自己選択」や「期待感」、「自分なりの方法で伝えようとする」など自分で考え、行動することに関する共通項が挙がった。
- ・「対話的な学び」では自分なりの方法で気持ちを相手に伝えることについて多くあがった。まず伝える相手に着目すると、小学部では「身近な教師」、中学部では「担任以外の教師」、高等部では「友達」と各々の発達段階に応じて伝える相手の幅が広がってきている。また、単純な YES/NO から言葉や身振りでの表出までと、自分なりの表出のスキルが伸びていることも明らかになった。

- ・「深い学び」では、本時での活動や学んだことを他の授業でも活かすことが共通項としてあがった。また変化への気づきや対応など、学習したことを日常や卒業後にも活かすことが深い学びにおいて大切だという意見があがった。

以上のことから、AC学級が考える主体的・対話的で深い学びとは、

「様々な場面で、自ら考え、自分の気持ちを自分なりの方法で相手に伝えていき、生活環境が変わっても、身につけた力を発揮するための学び」と意味づけすることができた。

②【学びの連続性について】

- ・「主体的な学び」では小学部から高等部のそれぞれの意味づけに自分で選ぶ、期待感を持つなどの「自ら考える」様子が児童生徒たちに見られていた。また学習や表出の仕方は様々だが、その後の活動に繋がっていたため、「自ら考えて学習したり、表出したりする」ことが学びの連続性と捉えた。
- ・「対話的な学び」では、それぞれ発達段階に応じて表出の方法は異なるが小学部では「身近な教師に伝える」、中学部では「担任以外の教師に表出する」、高等部では「友達に伝える」と、伝える相手に広がりが見られる。そのため、「段階に応じて表出する方法と相手が広がる」ことが学びの連続性と捉えた。
- ・「深い学び」では全学部共通で「変化に気づく」、「本時の学習を日常に活かす」ことが挙げられた。「本時の学習を日常でも活かす」ことに着目すると、小学部・中学部では「本時の学習を他の授業や日常で活かす」ことに重きを置き、高等部では「本時の学習を他の授業や日常だけでなく、進路先でも活かす」ということに重きを置いている意見があげられた。このことより、「(生活)環境が変わっても学んだことを活かす」ことが学びの連続性と捉えた。

(2) 課題と次年度の取り組み

全校研究テーマである「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善～社会に開かれた教育課程をめざして～」において、AC学級では自立活動を念頭に置いた授業展開と指導案の作成、授業参観を行い各学部の発達段階、生活年齢等の学びの連続性を意識したキーワードの意味づけに取り組んできた。その意味づけに対する検証を行うため、次年度は改めて各学びについて具体的な目標や仮説を立てて授業実践に取り組んでいく。また学びの連続性に関してもより明確な取り組みが必要となる。

(3) 次年度の研究テーマと設定理由

ＡＣ学級では、次年度の研究テーマや方向性に関するアンケートを実施した。そこであがった様々な意見や具体的な取り組みをまとめると以下の通りである。

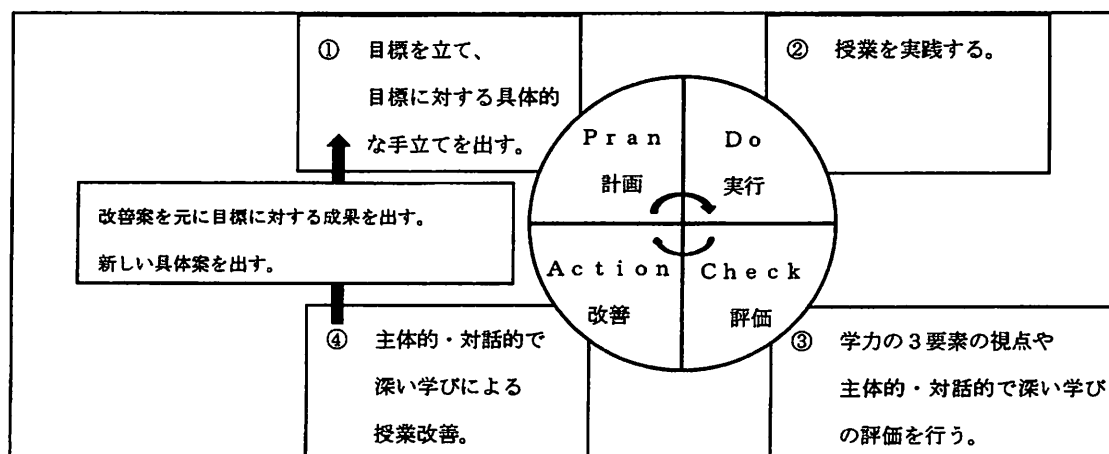
- ・児童生徒の「できた」に着目し達成感が得られるような授業づくり。
- ・児童生徒の主体的な表出を引き出すために、絵カードや具体物を提示し“分かりやすい”方法で情報を伝える。
- ・各学びの意味づけを立証するために具体的な目標を立て、※１PDCAサイクルをもとに授業改善を行う。
- ・卒業後を意識して、発達段階に応じた学習にスモールステップで取り組む。

以上を合わせ、次年度の柱としては「卒業後の生活を意識し、発達段階に応じた課題を明らかにしてスモールステップで取り組んでいくこと」と「今年度意味づけした各学びを具体的にし、児童生徒の達成感が得られるような授業づくり」とすることが明らかになった。

そこで、この２点の柱を踏まえて次年度ＡＣ学級では「卒業後の生活を意識したキャリアアップに繋がる授業づくりと授業改善」（仮）というテーマのもと取り組んでいきたい。

テーマ設定の理由として、ＡＣ学級は全学部の児童生徒が在籍しているため「学びの連続性」が狙いやすく、スモールステップで発達段階に応じた指導や支援に取り組みやすいことが挙げられる。また、全体に実施したアンケートからも、今年度意味づけした各学びについて改めて検討することで、具体的な目標やより良い授業実践ができるのではないかと意見が多く出された。さらに、次年度から新たに取り入れられる学習指導案での目標設定や授業内容、手立てが適切であったかどうかを本時だけでなく単元や題材全体の授業実践として評価することで、今後の授業改善へと繋がるのではないかとと思われる。中でも、授業づくりの際には卒業後の視点を大切にしたい授業内容であるとさらに３年目へと繋がられるのではないかと考えられる。

※１ PDCA サイクル



資料 AC学級の日課表

小学部A学級

	月	火	水	木	金
9:00	自立活動 せいかつ（着替え・排泄・朝の会）・からだ・かだい・係活動				
10:25	自立活動 からだ・あそび・かだい				
	生活単元学習（行事に向けて）				
11:55	自立活動 せいかつ（排泄・食事・歯磨き）				
13:20	自立活動 からだ・あそび・かだい				
13:45	自立活動 せいかつ（着替え・帰りの会）				

中学部A学級

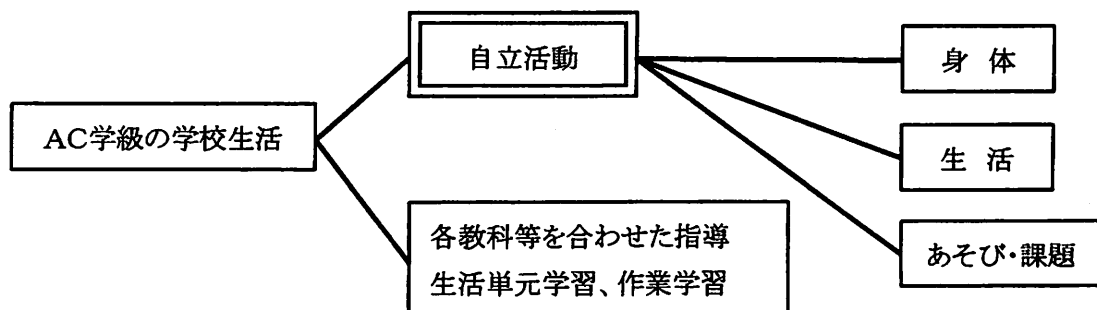
	月	火	水	木	金
9:00	自立活動：生活（着替え・排泄・水分補給）／身体／課題				
10:25	自立活動 生活（朝の会）				
11:00	作業学習			生活単元学習	
	自立活動 身体／課題			自立活動 身体／課題	
12:00	自立活動 生活（排泄・食事・歯磨き）				
13:00	自立活動 身体／課題		音 楽	自立活動 身体／課題	
13:50	自立活動（着替え・排泄・帰りの会等）				

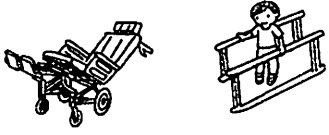
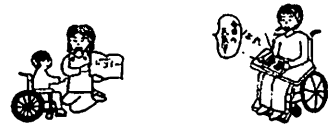
高等部A学級

	月	火	水	木	金
9:00	自立活動：生活（着替え・排泄・水分補給）／身体／課題（個別学習）				
9:25	自立活動 生活（朝の会）				
10:25	自立活動 身体／課題				
11:15	作業学習				自立活動 身体／課題
12:05	自立活動 生活（食事）				
13:00	自立活動 生活（歯磨き・排泄）／課題／身体			選択教科	自立活動 生活、課題、 身体 特別活動
14:00	自立活動 生活（着替え・帰りの会等）				

※C学級(訪問学級)は今年度在籍なし。

資料 AC学級の自立活動について



自 立 活 動		
①健康の保持 ②心理的な安定 ③人間関係の形成 ④環境の把握 ⑤身体の動き ⑥コミュニケーション		
1 身体 ※	2 生活 ※	3 あそび・課題 ※
○からだの学習 ○自立活動担当による時間における指導(抽出指導) ○日常生活の中での動きや移動など	○朝の会、帰りの会 ○係活動 ○排泄 ○着替え ○水分摂取、食事(摂食指導) ○吸引、栄養注入、家庭との連携(医療的ケア)など	○遊具あそび ○感触あそび・制作活動 ○歌あそび・音楽活動 ○光あそび ○本の読み聞かせなど
・日常生活に必要な基本的な姿勢や移動・運動動作を身につけられるようにする。 ・車椅子、座位保持椅子、歩行器、補装具、クッション等の補助的手段を活用し、よい姿勢を保つことやスムーズな動作を身につけられるように支援する。  ・力を抜いてリラックスできる姿勢や動きを身につけ、関節や筋肉の拘縮や変形を予防し、呼吸をはじめ内臓の働きを助ける。 ・学習(作業)に必要な姿勢や手足の動きづくりを目指す。	・生活に見通しを持って、身の回りのことをできる範囲で自分から行おうとする気持ちを育てる。 ・生活リズムや衛生意識を育て、健康的な生活ができるようにする。 ・あいさつや返事、はい・いいえ等の自分の気持ちを相手に伝える力を伸ばす。 ・一人一人の発達段階に応じて、食べる・飲む力を育て、おいしく楽しく安全に食べられるように支援する。 ・食事面ではスプーン・皿などの食具や支援の仕方を工夫し、自分で食べる力や意欲を育てる。 	・見る、聞く、触る、揺れるなどの基礎的な感覚を味わい、いろいろな刺激を受け入れたり楽しんだりする力を育てる。 ・好きな活動やできる活動を通して、選んだり、伝えたりする力を育てる。  ・個別学習では、一人一人に応じた教材や課題を通して、安心して人や物とかかわる力を育てる。 ・集団学習を通して、友達と触れ合ったり、かかわったりすることを楽しむ力を育て、自分から人とかわろうとする意欲を育てる。また、大勢での活動に慣れ、見通しを持って参加できる力を育む。

※学習指導要領における自立活動の6領域をAC学級で検討し、独自に3つの学習に振り分けた。これらは独立したものではなく相互に関連している。

あとがき

本校では27年度から28年度までの2年間は、「児童生徒の特性とニーズに応じた教育」を全校研究テーマとして授業実践をとおして研究を推進してきました。

今年度からは、今回の学習指導要領改訂を踏まえて、3年計画で「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」～社会に開かれた教育課程をめざして～を全校研究テーマに掲げ、研究を推進していくこととなりました。

研究計画1年目である今年度は、全校研究会をとおして次期学習指導要領の内容について全校職員が周知し、各学部で「主体的・対話的で深い学び」の意味づけや研究対象となる授業について検討したものを平成29年度実践報告集「時計台」としてまとめることができました。

小学部では、「主体的・対話的で深い学び」の意味づけでは、KJ法を用いて行い、生活単元学習や音楽などの学習場面や児童の学ぶ姿を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの視点に分類し、分類した情報を整理し、3つの意味を小学部のめざす姿として共通理解しました。

中学部では、「主体的・対話的で深い学び」の意味づけでは、作業班ごとに分かれ作業班ごとに生徒の作業で見られる姿を中心に挙げ、各作業班から挙げられた点を基に研究係で3つの学びを9項目に絞ったマンダラチャートを作成し、作成したマンダラチャートを基にさらに3つの学びについて8視点に分けてまとめました。

高等部では、「主体的・対話的で深い学び」の意味づけでは、4つの想定授業別によるグループ協議やキーワード別に協議をし、意味づけを整理しました。キーワードを学部職員で共有化するため、キーワード別の具体的な生徒の姿と教師の取り組みをアンケートにより洗い出しました。

AC学級では、「主体的・対話的で深い学び」の意味づけでは、それぞれの学部で指導案、研究メモ、ビデオ視聴によってあがった「各学び」について表にまとめ、共通項や学びの連続性が明らかになりました。

今年度、各学部で研究協議したことや全校研究会で講師の先生から御指導いただきましたことを糧として、次年度は「主体的・対話的で深い学び」についての意味づけを基に、3つの視点での授業実践をとおして授業改善に取り組んでまいります。

最後に本校の研究のために御指導・御助言をいただきました千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課指導主事 小倉京子先生に心より御礼申し上げます。

平成30年3月

教頭 山崎 博志

